

教育委員会定例会日程

令和5年11月15日

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長諸報告

4 議案

第14号議案 長岡京市教育委員会事務の点検及び評価の実施（令和4年度実績）について

5 協議事項

・令和5年度12月教育費補正について

(教育総務課、学校教育課、生涯学習課、文化・スポーツ振興課、
中央公民館、図書館)

・長岡第四小学校再整備工事請負契約の変更（第3回）について

(教育総務課)

・公の施設の指定管理者の指定について（長岡京市中山修一記念館）

(文化財保存活用課)

6 報告事項

・令和6年度始業式等の日程について

(学校教育課)

7 行事・会議結果報告

8 次回定例会までの行事・会議予定

9 意見交換

10 閉会

第 1 4 号議案

長岡京市教育委員会事務の点検及び評価の実施（令和 4 年度実績）について

長岡京市教育委員会事務の点検及び評価の実施（令和 4 年度実績）について、長岡京市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条の規定に基づき、教育委員会の議決を求める。

令和 5 年 1 1 月 1 5 日提出

長岡京市教育委員会

教育長 西 村 文 則

（提案理由）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 2 6 条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うため提案する。



長岡京市教育委員会事務の
点検及び評価の実施に関する報告書（案）
【令和4年度実績】



地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和4年度に実施した教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った結果に関する報告書を提出します。

令和5年12月

長岡京市教育委員会

目 次

第 1	点検及び評価の実施概要	1
第 2	点検及び評価の結果（実施計画の点検評価）	3
	総 評	
	基本目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成	5
	基本目標 2 持続可能な教育施策推進のための環境整備	29
	基本目標 3 生涯を通じた多様な学びによる豊かな人づくり、 地域づくり	39
	基本目標 4 子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	53
資 料	（評価指標）	63

第1 点検及び評価の実施概要

1. 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条」により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することとされています。また、作成した報告書は、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

なお、この点検及び評価に当たっては、教育に関する学識経験者の知見の活用を図るものとされています。

同法の規定に基づき、この度、長岡京市教育委員会が点検及び評価を行い、その結果を報告書としてまとめました。

<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋） （教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等） 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。</p>

2. 概 要

(1) 教育委員会の所管する事務事業の取組実績、成果や課題等について自己評価

(2) 教育に関する有識者による外部評価

・有識者 2名(敬称略、50音順)

氏 名	役 職 等
加藤 善朗	京都西山短期大学 学長
藤村 祐子	滋賀大学教育学部 准教授

・外部評価会議

令和5年9月28日(木)

(3) 11月定例教育委員会において、報告書を議決

3. 総論

長岡京市教育委員会では、本市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、「長岡京市第2期教育振興基本計画（計画年度：令和3～12年度）」を策定しています。

計画の推進にあたっては、施策に連なる50の「主な取組・事業」＝実施計画において年次の目標「目標指標」を設けています。この「目標指標」に対する結果と、施策に関連する統計の数値「評価指標」の推移を評価し、客観的な根拠（エビデンス）に基づく政策立案と、より効果的な施策のマネジメントを行うPDCAサイクルに基づく見直しにより、計画の推進を図ることとしています。

本市教育委員会では、この計画の進捗状況の点検評価と見直しの仕組みを、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に定める教育委員会事務の点検・評価と位置付けました。

令和4年度は、長岡京市第2期教育振興基本計画に基づく2年目の評価となり、50項目の実施計画のうち、A（目標の100%以上達成）は27項目、B（目標の80%～100%程度達成）は19項目となっており、合わせて46項目（全体の92%の事業）において、概ね目標を達成できたという結果になりました。

4. 学識経験者の総評

（加藤評価員）

今回は、長岡京市第2期教育振興基本計画に基づく2年目の点検評価です。コロナウイルス感染症の取り扱いが、2類から5類に移行したということから、学校教育の現場でも、さまざまな改善が見られますが、引き続きwithコロナの状況は続き、他の感染症の脅威から解放されたわけではありません。今回の評価を今度どのように改善につなげていくかが大切です。各項目では改善が見られており、現場の努力の成果だと感じます。また、コロナ禍で落ち込んだ施設利用者や事業参加者の復活を期待しています。

（藤村評価員）

昨年度の実績を振り返ると、全体的に好意的な評価を与えることができます。この点において、前年度の課題を適切に踏まえ、的確な計画が策定され、それが着実に実施されたと思います。更に、計画に関しては着実な振り返りも行われ、その成果も一定の水準で示されていることが確認できました。

一方、今後の展望において、自治体の政策における改善点として指摘すべき点もあります。具体的には、短期的に解決が難しい問題に対して、長期的な視点での目標設定と、それに向けた改善策への取り組みが必要です。例えば、不登校児童生徒への対応、教育のICT化によるデジタルデバイドの課題、非認知能力の育成の課題、社会教育の人材確保の問題などが挙げられます。これらの課題は単なる自治体内の問題ではなく、全国的な課題として位置づけられており、他の自治体の成功事例や取り組みを参考にし、横のつながりを築くことが非常に重要です。

第2 点検及び評価の結果（実施計画の点検評価）

★4つの基本目標、11の基本施策、50の実施計画（主な取組・事業）

第2期教育振興基本計画						
基本目標	基本施策	施策の方向性	通番	主な取組・事業（実施計画）	担当課	評価
1 子どもたちの「生きる力」の育成	(1) 学力の充実・向上	① 主体的に学ぶ子どもの育成	1	主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	学校教育課	B
			2	教科学習の充実と指導方法の調査研究	学校教育課	B
			3	英語（外国語活動・外国語）と国際理解教育の推進	学校教育課	A
			4	読書活動の充実（小・中学校）	学校教育課	A
			5	家庭における学習習慣の確立（小・中学校）	学校教育課	C
	(2) 心の教育の推進	② 育ちと学びをつなぐ教育の推進	6	就学前・小学校・中学校の連携推進	学校教育課	A
			7	道徳教育の充実	学校教育課	B
			8	実態に即した生徒指導（学級経営等）	学校教育課	B
			9	人権教育の充実（小・中学校）	学校教育課	A
			10	体験活動の充実	学校教育課	B
	(3) 健康・安全教育の推進	① 健康教育・安全教育・食育の推進	11	健康教育の推進	学校教育課	B
			12	安全教育（防犯・交通安全）及び防災教育の推進	学校教育課	A
			13	安全管理の充実	学校教育課	A
			14	食育の推進と安全・安心な給食の提供	学校教育課	A
			15	学校体育・スポーツ活動の推進（小・中学校）	学校教育課	B
	(4) きめ細かな支援の充実	② 体力向上の取組の推進	16	特別支援教育の充実	学校教育課	A
			17	関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援	学校教育課 教育支援センター	A
			18	学校における指導体制及び学習環境の充実	学校教育課	A
			19	いじめの問題等への対策	学校教育課	B
			20	教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備	教育支援センター	B
	(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	② 教育的支援が必要な子どもへの相談・支援体制の充実	21	キャリア教育の推進	学校教育課	A
			再掲	英語（外国語活動・外国語）と国際理解教育の推進	学校教育課	—
22			プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成	学校教育課	A	
23			指導内容に対応した教材、備品の配備	学校教育課 教育総務課	A	
24			就学や進学に対する支援体制の充実	学校教育課 教育総務課	A	
2 持続可能な環境整備	(6) 学びを支える環境の整備	① 学習環境等の整備・充実	25	学校施設安全・快適整備	教育総務課	A
			26	学校施設再整備事業	教育総務課	B
			27	持続可能な学校指導体制の環境整備	学校教育課	A
	(7) よりよい学校づくりの推進	② 教職員にとって働きがいのある環境づくり	28	教職員研修事業	教育支援センター	A
			29	地域とともにある学校づくり	学校教育課	A
			30	外部人材の活用	学校教育課	B
			31	公民館市民講座開設事業	中央公民館	B
3 豊かな人づくり、地域づくり	(8) 生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	① 生涯を通じた学びの機会の充実	32	中央生涯学習センター事業	生涯学習課	B
			33	社会教育推進事業	生涯学習課	B
			再掲	公民館市民講座開設事業【再掲】	中央公民館	—
			34	各種団体サークル等活動支援事業	中央公民館	B
			35	図書館サービスの推進・充実事業	図書館	A
			再掲	読書活動の充実（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—
			36	人権教育・啓発推進事業	生涯学習課	B
			再掲	人権教育の充実（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—
	(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	② 地域に広がる学びへの支援	37	長岡京芸術劇場推進事業	文化・スポーツ振興課	C
			38	文化活動推進・支援事業	文化・スポーツ振興課	C
			39	総合型地域スポーツクラブ推進事業	文化・スポーツ振興課	A
			40	スポーツ交流推進事業	文化・スポーツ振興課	A
			41	スポーツ施設環境の整備	文化・スポーツ振興課	C
			再掲	学校体育・スポーツ活動の推進（小・中学校）【再掲】	文化・スポーツ振興課	—
4 なごる地域の学びの推進	(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	① 地域ぐるみでの育成活動の推進	42	総合的な文化財保存活用の推進	文化財保存活用課	A
			43	地域見守り活動の推進	生涯学習課	A
			44	地域で支える中学校教育支援事業	生涯学習課	B
			45	家庭教育に関する学びの機会の充実	生涯学習課	B
			46	教育に関する保護者相談体制の充実	教育支援センター	A
	(11) 子どもを健全に育む場の充実	② 家庭教育への支援の充実	47	児童館子どもの居場所づくり事業（子育てサロン）	北開田児童館	A
			再掲	家庭における学習習慣の確立（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—
			48	放課後児童クラブ育成事業	生涯学習課	A
			49	すくすく教室推進事業	生涯学習課	B
			50	児童館子どもの居場所づくり事業（子どもの遊び場）	北開田児童館	A

A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）
 B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）
 C：目標の一部を達成できなかった
 D：目標を達成できなかった

基本目標Ⅰ

子どもたちの「生きる力」の育成

基本施策(1) 学力の充実・向上 (通番1~6)

基本施策(2) 心の教育の推進 (通番7~10)

基本施策(3) 健康・安全教育の推進 (通番11~15)

基本施策(4) きめ細かな支援の充実 (通番16~20)

基本施策(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進 (通番21・22)

基本目標 1

学識経験者の主な意見

<通番1「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」>

- 従来型の一斉指導が行われているという課題に対しては、従来型の指導に固執しないよう教員に対し研修や指導を行ってほしい。ただし、子どもの性格や状態によっては、必ずしも「主体的・対話的な指導」が良いとは限らないため、状況に合わせて一斉指導も取り入れながら、バランスよく授業づくりを進める必要がある。

<通番2「教科学習の充実と指導方法の調査研究」>

- 昨年度から「非認知能力の向上による学力向上実践研究」に取り組み、その成果を市内の小中学校へ伝えていくことで、一定の波及効果が生じていると思われる。今後も引き続き実践研究を行い、授業改善や学力向上を図ってほしい。

<通番5「家庭における学習習慣の確立(小・中学校)」>

- 学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合(全国学力・学習状況調査)が昨年よりも増えており、家庭学習の定着が課題である。これは、個々の家庭環境や学校の状況にもよるので、難しい問題だとは思いますが、生きる力を育成するうえで自学自習は基本であり、大変重要なことである。お便りや懇談会等での周知啓発に加えて、児童生徒が主体的に家庭学習に向かえるような施策を行ってほしい。

<通番9「人権教育の充実(小・中学校)」>

- 公開の場である参観日に人権学習をされていることは、大変評価できる。子どもを通して親の意識も変わり、そして周りも変わっていく取り組みという点で、効果が期待できる。学校側の準備も大変だと思うが、今後も続けていただきたい。

<通番22「プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成」>

- プログラミング教育・ICTを用いた教育の推進及び情報活用能力の育成について、きわめて実践的に実施されている様子がかがえた。教育現場の改善には大変な努力を感じられる。一方で、ICの推進が、新たなデジタルデバイドを産んでいないか、十分な検証が必要であると考えられる。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 1
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	—	学校教育課
事業の概要			
習得・活用・探究などの学びの過程の工夫や学ぶ意欲を高める取組を推進するとともに、教科等横断的な活動や体験的な活動を行い、主体的に思考・表現する学習活動や子ども同士が学び合い、協働しあう場の充実に努めます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	これまでに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)76.2 (中3)72.3 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)77.7 (中3)85.7	(小6)73.4 (中3)78.7			
	目標指標②	学校の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
(小6)75.4 (中3)73.7 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
	実績	(小6)79.2 (中3)81.0	(小6)77.4 (中3)78.2				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校では、主体的・対話的で深い学びを目指す授業、課題解決型の授業等を展開しました。 「総合的な学習の時間」では、課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の学習の中で、仲間と課題解決に向けて話し合い、目標を達成するという学習をしました。その過程では、他の教科で学んだ知識や技術を活用したり、意見を出し合ったりしながら、主体的に思考し表現することや、協働することの大切さについて学びました。 小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面適用開始されたことから、引き続き、「外国語活動の充実」「道徳の教科化」「プログラミング教育を含む情報活用能力の育成」等の取り組みを通じて、主体的・対話的で深い学びを目指す授業、課題解決型の授業等を展開しました。 教職員の指導力向上を目指し、学習指導要領を踏まえた学習指導や学習評価についての研修を実施しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標①②共に、前年度と比べ、実績値が微減する結果となりましたが、学習指導要領の主旨を踏まえた学習や「総合的な学習の時間」での取組を通じて、課題解決に向けて子どもたち同士が話し合う活動や教科等横断的な学習、また、体験的な活動を行うことにより、主体的に思考・表現する学びや対話的で協働的な学びを進めることができました。 ・授業においては、従来型の一斉指導が行われている現状もあるため、今後も「主体的に思考・表現する学習」や「子ども同士が協働し、学び合う活動」を進めていくことが必要です。 ・課題の解決に向けて自分で考え取り組んだり、友達と話し合うことにより自分の考えを深め、広げられるきっかけとなるような問いを、授業の中で設定することが必要です。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・各校での研修や実践交流、市主催の各種研修などを通じて、教職員の「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」の意識を高め、指導力向上と授業改善を進めます。 ・児童生徒が一人で取り組む場合であっても、友達と取り組む場合であっても、課題解決に取り組みたいと思えるような問いを、教職員が授業の中で設定できるよう指導力向上を進めます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・各校での研修や実践交流、市主催の各種研修などを通じて、教職員の「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」の意識を高め、指導力向上と授業改善を進めます。 ・児童生徒が一人で取り組む場合であっても、友達と取り組む場合であっても、課題解決に取り組みたいと思えるような問いを、教職員が授業の中で設定できるよう指導力向上を進めます。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・各校での研修や実践交流、市主催の各種研修などを通じて、教職員の「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」の意識を高め、指導力向上と授業改善を進めます。 ・児童生徒が一人で取り組む場合であっても、友達と取り組む場合であっても、課題解決に取り組みたいと思えるような問いを、教職員が授業の中で設定できるよう指導力向上を進めます。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 2
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	教科学習の充実と指導方法の調査研究	6,482,571	学校教育課
事業の概要			
個に応じたきめ細かな指導など、学校の課題に応じた指導の工夫に努めるとともに、学力の状況の把握・分析を踏まえた授業改善を行い、各校での実態に即したカリキュラムの充実・開発に取り組めます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	全国学力・学習状況調査の正答数分布状況(平均正答数1/2以下の割合)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	【小学6年生】 国語6.6算数3.6 【中学3年生】 国語7.0数学8.7 英語3.8 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	【小学6年生】 国語3.9算数4.2 【中学3年生】 国語4.3数学7.6 ※英語実施なし	【小学6年生】 国語7.2算数6.4 参考(理科6.5) 【中学3年生】 国語2.1数学9.8 参考(理科8.6) ※英語実施なし			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では指導目標を明確化し、導入・展開の工夫、タブレット端末等のICT機器を有効活用するなど、効率的できめ細やかな指導を行いました。 ・各校の課題に応じて、大学の教員を校内研修会の講師として招聘し、教職員の指導力の向上を図りました。 ・全国学力学習状況調査を分析し、その結果を校長会議等でフィードバックした他、ホームページに分析結果を掲載しました。 ・少人数授業、少人数学級、チーム・ティーチング等を実施し、個に応じた学習を進め、学力の向上に努めました。 ・中学校では、学力向上サポーターを配置し、生徒の基礎基本の学力の定着と学習意欲の向上に向けた支援を行いました。 ・新たに長二中校区の小中学校において「非認知能力の向上による学力向上実践研究」を実施し、専門家の定期的な招聘(各校2回)や先進地視察を通して、学力向上につながる授業づくりに関する実践研究を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、平均正答数の1/2以下の児童生徒の割合(学力低位層)は、中学校国語以外で令和3年度より増加しましたが、全国・京都府ともに同割合が増加したことを考慮すると、必ずしも本市の学力低位層が増加したとは言えず、本市の学力低位層の割合は小中学校ともに全ての教科において全国・京都府の割合を下回っています。 ・研究指定校による公開授業や研究発表会を行い、教職員の指導力向上に結び付けることができました。 ・児童生徒一人につき一台のタブレット端末を導入し、どの授業でも積極的な活用を図ったことで、児童生徒の興味関心を高め、学習内容の理解を深めることができました。 ・中学校では学力向上サポーターを配置し、基礎基本の定着と学習意欲の向上に向けた支援を行いました。 ・長二中校区では「非認知能力の向上による学力向上実践研究チーム」を立ち上げ、会議を定期開催(計4回)し、取組の方向性が共有できました。また、各校での取組を「研究報告」としてまとめ、教職員の共通理解が図られました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力が定着していない児童生徒や、特別な支援や配慮の必要な児童生徒への、個別指導・支援を充実させるための手立ての検討が引き続き必要です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上サポーターや特別支援教育の支援員等の配置を行い、継続して学習支援を行います。 ・各学校での教職員対象の研修の実施や、大学教授等の専門的かつ分析的な視点から指導助言を得ることで、さらに教職員の授業力の向上を図り、授業改善を進めます。 ・「非認知能力の向上による学力向上実践研究」の成果を、市内の小中学校に波及させるとともに、各校にて授業改善・学力向上につながる取組が進められるよう支援します。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 3
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進	12,657,113	学校教育課
事業の概要			
発達段階を踏まえた4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)の系統的な指導を実施します。また、小・中学校において、異文化を学ぶ機会や発表の場を設け、国際理解教育を推進します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	英語技能検定3級以上の取得率(中学校)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	43.5(令和元年度)	目標	50以上	50以上	50以上	50以上	50以上
		実績	55.3	51.9			
	目標指標②	小学校時の外国語活動の勉強は好きだったと回答した生徒(中1)の割合(京都府学力診断テスト(生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	74.0(令和元年度)	目標	75以上	75以上	75以上	75以上	75以上
		実績	66.8	※府調査:実施なし			
	目標指標③	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)64.6 (中3)61.6 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	※国調査:質問項目削除	※府調査:質問項目削除			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 英語を母国語とする人材に触れ、異文化や多様な生活習慣を学ぶことができるよう、ネイティブの英語指導助手(外国人AET)を中学校に2名配置しました。 小学校においては、英語専科教員の配置を行う一方で、外国語活動指導員(日本人AET)を計7名配置し、英語に対する興味関心を持てるような指導を行いました。 AETのミーティングを月に1~2回実施するなど、円滑で充実した授業実践が行えるよう連携を図りました。 英語学習に対するモチベーションを高めたり、学びのきっかけとなるよう、中学3年生に対して英語技能検定の検定料を助成しました。 コロナ禍で中止となっていた、4年ぶりとなる中学校米国短期交換留学事業のアーリントン訪問に向けて、団員募集説明会を実施のうえ、募集・選定し、英語や生活習慣等を学ぶ学習会を開始しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校高学年では英語専科教員が中心となり、小学校低学年及び中学年では日本人AETと担任が連携して指導に当たることで、よりきめ細やかで充実した外国語教育の実施を図ることができました。 中学3年生を対象とした英語技能検定については、新たにインターネットでの受検方式(S-CBT方式)も検定料の助成対象とし、受検機会を増やす取り組みを実施しました。受検率は前年度より下がりましたが(R3:47.3% R4:39.5%)、一方で英検3級以上の英語力を有する生徒の割合は51.9%となり、目標とする50%以上を達成することができました。 指標②については、京都府学力診断テストが次期テストの準備のため実施されなかったことにより、達成状況を確認することができませんでした。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童生徒へ分かりやすく充実した授業を実施することが必要です。 英語技能検定の受検率が下がったため、周知方法を見直すなど、より多くの生徒が受検するよう積極的に周知・勧奨する必要があります。 令和4年度に再開を果たしたアーリントンへの訪問を、今後も継続して実施することが必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では引き続き日本人AETや英語専科教員を配置し、外国語教育の充実を図ります。 学習活動の更なる充実に向け、タブレット端末の活用等を行うことにより、より分かりやすく効果的な教育を児童生徒へ行います。また、引き続き教職員の研修やAETのミーティングも併せて実施します。 英語技能検定の受検率を上げるため、授業等で生徒への周知を行うといった、これまでの周知・勧奨方法等の見直しを行います。 市立中学校米国短期交換留学事業では、アーリントンへの訪問を行い、更に次年度に向けた訪問準備や、アーリントンからの生徒の受け入れ準備を行い、それら準備も通して、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会を設けます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 4
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿		新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	読書活動の充実(小・中学校)		11,808,880	学校教育課
	事業の概要			
豊かな学びを育むために読書活動の更なる推進を図ります。 学校図書館司書の配置等の図書館環境の整備を行うとともに、読書に関する啓発活動を行います。また、適切な蔵書の更新についても行います。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	児童(小学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	34.2(令和元年度)	目標	34.5	35.0	35.5	36.0	36.5
		実績	38.8	37.3			
	目標指標②	生徒(中学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
5.8(令和元年度)	目標	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	
	実績	6.6	6.5				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 新規図書の購入及び蔵書の整理については、文部科学省の定める「学校図書館図書基準」を目標に行いました。 読書活動の推進を図るため、各校に学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備や啓発を行いました。 コロナが終息に向かう中、感染対策を講じながら、ボランティアの活用や委員会活動・授業において読み聞かせやブックトークを行いました。また、必要な図書を吟味するための選書会も行いました。読み聞かせ等については、感染状況を見ながら教室で対面で読み聞かせをしました。 児童生徒が学校図書館に親しみ、楽しんで読書ができるように、図書館司書を中心にレイアウト等の改善を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが終息に向かう中、少しずつコロナ前の活動に戻すことができるようになり、一人あたりの年間の来館回数は昨年度より増加しました。 ・適切な図書計画により蔵書冊数を充実させ、選書会の活用等を通して、児童生徒のニーズと時代に合った図書を揃えています。 ・図書館司書による日々の読み聞かせやブックトーク、夏休みにおける図書室開放の取組を通して、児童生徒の読書活動の充実が図られています。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、適切な蔵書の更新(古い本の廃棄)が課題です。 ・年齢が上がるにつれて読書冊数が減少する傾向や、読書をする・しないの二極化が引き続き課題です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I: 計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「学校図書館図書基準」を目標とし、選書会等を活用しながら、蔵書の整備・更新を行います。 ・各校に学校図書館司書を配置し、図書館環境や読書活動の充実に向けた取組を計画的に進めます。 ・読書冊数の減少傾向や読書をする・しないの二極化を改善するため、引き続き図書館環境を整備し、授業や委員会活動等を通じた児童生徒への読書啓発に取り組みます。

基本目標	Ⅰ	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 5
基本施策	(Ⅰ)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	家庭における学習習慣の確立(小・中学校)		—	学校教育課
	事業の概要			
学習習慣、生活習慣の形成に向けての、家庭との連携による取組を推進します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合(全国学力・学習状況調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)7.4 (中3)19.7 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小6)9.2 (中3)10.5	(小6)18.0 (中3)15.6			
内容 ・学校では、家庭学習の大切さや意義を伝えるとともに、宿題や課題を通して学習内容の定着を図りました。 ・全国学力・学習状況調査の結果を市ホームページへ掲載し、本市児童生徒の学力・学習状況について保護者や市民の皆様にお伝えするとともに、更なる学力の向上に向けて、家庭の協力を促しました。							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった 達成状況 ・令和3年度の状況と比較した実績値は、小学校では8.8%増加、中学校では5.1%増加となり、目標を達成できませんでした。
	課題等	・児童生徒が主体的に家庭学習に向かえるよう、発達段階に応じた宿題や課題が求められます。 ・生活習慣や学習習慣の改善について、家庭への理解啓発を図るとともに、学力低位層の児童生徒の個々の状況の把握と対応が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性 Ⅰ:計画通りに進めることが適当	・生活習慣、家庭学習の大切さや意義についての理解が深まるよう、引き続きお便りや懇談会等を通して周知啓発します。 ・授業内容に合った宿題や課題を通して、児童生徒の意欲や関心を高め、主体的な学習習慣につながるよう取り組みます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 6
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿		新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	就学前・小学校・中学校の連携推進		68,197	学校教育課
	事業の概要			
幼稚園や保育所等の幼児の小学校への体験入学の実施や、保育所(園)・幼稚園・こども園と小学校の教員による、保幼小連携会議での互いの教育・保育内容の相互理解を推進します。また、幼児期と児童期をつなぐスタートカリキュラムや、中学校の「学校選択制」の実施など、小・中学校の連携強化に努めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	もうすぐ1年生事業に取り組む小学校数				単位	校
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		10(令和元年度)	目標	10	10	10	10
			実績	10	10		
	目標指標②	部活動の参観公開や小学校と教育活動の連携を行っている中学校数				単位	校
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		4(令和元年度)	目標	4	4	4	4
			実績	4	4		
	内容	<p>《もうすぐ一年生事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学に向けて、幼児教育施設と小学校の教職員による連絡会議(情報交流)を実施しました。 ・小学校に入学した児童の様子を、保育者が参観する場を持ちました。また、小学校教員との懇談も実施しました。 ・幼児の小学校における学校体験を実施しました。 ・幼児教育施設及び小学校の教職員による「長岡京市保幼小連携会議全体会」を、3回開催しました。 <p>《小中連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学したい中学校を選ぶことができる「学校選択制」を実施するにあたり、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、小学生が中学校を訪問する学校公開(授業参観や部活動体験)を実施しました。 ・中学校の授業のイメージづくりに繋がるよう、各中学校に配置された小中連携担当教員が、小学校で専門性を活かした授業を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 ・幼児にとって、小学校生活への期待を膨らますことのできる取組であるとともに、不安の解消にもつながる良い取組となりました。 ・教育と保育の垣根を越えて相互交流を行うことにより、教職員の保育・教育内容についての理解が進み、幼児・児童に対する指導や支援に活かすことができました。 ・「学校選択制」に伴う学校公開(授業参観や部活動体験)を実施することにより、小学生が中学校の様子に触れ、進学への不安を和らげることにつながりました。 ・小中連携担当教員が小学校で授業をすることで、小中学校間の情報交流が進み、連携がより強化されました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く状況が多様化するなか、幼小接続・連携が担うべき役割は大きく、本市がこれまで築いてきた連携体制や接続の取組を、より充実させていくことが必要です。 ・幼児教育施設と小学校が相互に学び、理解をより深めるために、教職員の公開保育や研究発表会への参加機会や、日常的な参観・見学などの機会を、可能な限り呼びかけ、増やしていくことが必要です。 ・学校選択制により中学校へ入学した生徒のうち、自転車通学する生徒の安全の確保や、人間関係が希薄な新しい集団のなかで学校生活をスタートするにあたり、様々な支援が必要な生徒のサポート体制を整えることが必要です。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づいた幼小接続の在り方について、交流・研修の場を設けていきます。 ・市内全ての小学校と幼児教育施設の連携のもと、これまでの実践を工夫・改善し、各施設が主体的に取組を進めていきます。 ・学校選択制及び小中連携の取組(中学校教員による小学校での授業実施等)を継続的に実施します。 ・学校選択制により中学校へ入学した生徒で、様々な支援が必要な生徒のサポートについては、教育委員会と学校が情報共有を行い、連携を取り合いながら進めていきます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 7
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿	道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊心や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。		

概 要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	道徳教育の充実	—	学校教育課
	事業の概要		
「考え、議論する道徳」として、児童生徒が話し合い、互いに学び、深め合う授業による、道徳的な判断力、心情、基本意識やそれを行動に移すことができる実践意欲と態度を育成します。また、家庭や地域社会と一体となった道徳の実践力を促す環境をつくりま			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	これまで受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)81.7 (中3)75.9 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)82.8% (中3)83.7%	(小6)77.8% (中3)86.7%			
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の学習では、道徳的課題を「自分事」として考えたり感じたりする時間を設定しました。物事を多面的・多角的に考え、児童生徒同士で議論したり、自分で深く考えたりすることを通して、実践的な授業を行いました。 ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、評価することを通して、児童生徒の道徳的な判断力や心情、実践意欲、態度を育成しました。 ・各校での道徳教育の実践について、参観日を設定して保護者や地域の方向けに授業を公開したり、地域や家庭へ学校だより等を通して情報発信しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合 (目標の80%~100%程度)	達成状況 ・目標指標の実績については、小学校では前年度よりもやや下回りましたが、中学校ではやや増加しました。 ・「特別の教科 道徳」の教科の時間を中心に話し合い、互いに考え、深め合う学習を通して、道徳教育の充実を図りました。 ・道徳の時間に限らずその他の教科においても教育活動を実践し、児童生徒の道徳性を育成することができました。
	課題等	・子どもたちの道徳性を育むためには、道徳の時間の学習だけでなく、他教科も含めた横断的な学習を含む教育活動全体での実践や、学校と家庭、地域社会と連携した実践が必要です。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td>・子どもたちの道徳性を養うため、引き続き「特別の教科 道徳」の時間の学習のみならず、各教科の学習や各領域の活動も含めて、教育活動全体での実践を推進します。 ・子どもたちの道徳実践力を育成するため、引き続き学校と家庭や地域社会との連携に取り組みます。</td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	・子どもたちの道徳性を養うため、引き続き「特別の教科 道徳」の時間の学習のみならず、各教科の学習や各領域の活動も含めて、教育活動全体での実践を推進します。 ・子どもたちの道徳実践力を育成するため、引き続き学校と家庭や地域社会との連携に取り組みます。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	・子どもたちの道徳性を養うため、引き続き「特別の教科 道徳」の時間の学習のみならず、各教科の学習や各領域の活動も含めて、教育活動全体での実践を推進します。 ・子どもたちの道徳実践力を育成するため、引き続き学校と家庭や地域社会との連携に取り組みます。				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 8
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿	道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊感情や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	実態に即した生徒指導(学級経営等)	—	学校教育課
事業の概要			
児童生徒の生活実態の把握や内面理解による児童生徒個々の課題解決や、児童生徒と教職員の相互の心のふれあいによる信頼関係の構築に努めます。			

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標①	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))					単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	(小)75.0 (中)76.0 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
		実績	(小)72.2 (中)74.4	(小)65.4 (中)77.6				
	目標指標②	非行防止教室の開催状況					単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
		実績	(小)100 (中)100	(小)90 (中)100				
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 日々の各教科における学習活動や学校行事での取組を通して、児童生徒同士での話し合いや意思決定の機会を持ちました。 教職員が朝の健康観察(小学校)や教育相談期間(中学校)を中心に、児童生徒の様子や生活実態を把握し、内面理解に努めることにより、個々の課題の解決や信頼関係の構築に努めました。 京都府警からの出前授業を活用し、ほとんどの小中学校において非行防止教室を実施しました。 学級活動や道徳科の学習、学校行事等を通して、いじめ防止や社会規範やマナー等の意識醸成を図り、適切な人間関係の育成に努めました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動を通して、人との信頼関係や人間関係づくりの育成につなげ、教職員が児童生徒の抱える課題の実態を把握し、個々に応じた支援・指導を行うことができました。 コロナ禍における教育活動の制限があり、児童生徒同士が積極的に話し合ったり、関わったりする活動は減りましたが、タブレット端末を効果的に活用し、各教科の学習活動や学級活動、学校行事を通して児童生徒間の信頼関係づくりに繋げていくことができました。 全校における非行防止教室の開催や、道徳科の学習を通して、社会規範やマナーについての意識醸成を図ることができました。 目標指標①及び②について、中学校ではいずれも達成できましたが、小学校では目標を下回る結果となりました。
	課題等	児童生徒の抱える課題が複雑化・多様化しているため、各校の教職員や保護者に対して、専門的助言を要したり、関係機関との連携が必要なケースが増えています。	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習活動や学級活動、学校行事での取組を通して児童生徒の関係づくりを育成します。 非行防止教室を引き続き実施し、児童生徒が社会規範やマナーを身に付けられるよう取り組みます。 複雑化、多様化する児童生徒の課題に対して、各校において児童生徒の実態把握と適切な指導、関係機関等との情報共有と連携に努めます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習活動や学級活動、学校行事での取組を通して児童生徒の関係づくりを育成します。 非行防止教室を引き続き実施し、児童生徒が社会規範やマナーを身に付けられるよう取り組みます。 複雑化、多様化する児童生徒の課題に対して、各校において児童生徒の実態把握と適切な指導、関係機関等との情報共有と連携に努めます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習活動や学級活動、学校行事での取組を通して児童生徒の関係づくりを育成します。 非行防止教室を引き続き実施し、児童生徒が社会規範やマナーを身に付けられるよう取り組みます。 複雑化、多様化する児童生徒の課題に対して、各校において児童生徒の実態把握と適切な指導、関係機関等との情報共有と連携に努めます。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 9
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿	道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊心や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	人権教育の充実(小・中学校)	—	学校教育課
	事業の概要		
すべての人の基本的な人権を尊重する心とあらゆる人権問題(同和問題、障がい者等の人権、性の多様性への理解等)の解決に向かう態度の育成を目指し、各校での人権教育全体計画に基づく発表の場の充実に努め、人権学習を実施します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	人権教育全体計画を作成し、これに基づき人権学習を実施している学校の割合				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
	目標指標②	人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)95.0 (中1)98.0 (中2)97.0 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)93.9 (中1)96.3 (中2)94.5	※府調査:実施なし			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の人権意識を高めるため、日常的な指導に加え、学年や異学年での交流、人権週間の取組、人権学習の公開授業などを実施しました。 人権ポスターや人権標語への応募などの取組にも積極的に参加しました。 児童生徒の人間関係づくりや自尊心が高められるように、授業ではグループでの話し合いや交流などの場を積極的に取り入れています。 体育大会や1年生を迎える会などの行事を通して、互いを理解し、望ましい人間関係を築く機会を持つことができました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 ・全小中学校で人権教育全体計画を作成し、各学年の実態に合わせた取組内容を実施することができました。(目標指標①) ・目標指標②については、京都府学力診断テストが実施されなかったため達成状況を確認することができませんでした。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 各校で人権教育を計画的に実施することが必要です。 様々な行事や教育活動を通して、人の気持ちを分かることや信頼関係づくりの大切さを実感する機会を確保していくことが求められます。 	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td>各校の人権教育全体計画に基づき、各校の実態と発達段階に合わせた人権学習を実施し、基本的な人権を尊重する心と様々な人権問題の課題解決に向かう態度を育成することに努めます。</td> </tr> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	各校の人権教育全体計画に基づき、各校の実態と発達段階に合わせた人権学習を実施し、基本的な人権を尊重する心と様々な人権問題の課題解決に向かう態度を育成することに努めます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	各校の人権教育全体計画に基づき、各校の実態と発達段階に合わせた人権学習を実施し、基本的な人権を尊重する心と様々な人権問題の課題解決に向かう態度を育成することに努めます。				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 10
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿	道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊心や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	体験活動の充実	51,595	学校教育課
	事業の概要		
市小中学校美術展や吹奏楽演奏会等を開催します。また、地域の文化財見学等、郷土の歴史に触れる機会を創出します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)66 (中1)63 (中2)33 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)56 (中1)52 (中2)31	※府の調査: 実施無し			
内容 ・文化・芸術活動や体験活動の機会創出をコロナ禍以前の水準に戻す動きの中で、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、3年ぶりに小中学校美術展や中学校吹奏楽部の定期演奏会を実地開催しました。 ・小学校では生活科、社会科や総合的な学習の時間などの授業において、タケノコ掘りやナスの農園見学などを通して市の特産品に触れたほか、市内の歴史的ゆかりのある場所へ行き、文化財の見学や校区探検などを行いました。							

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況 ・京都府学力診断テストにおいて、児童生徒質問紙の実施が無くなったため、実績を数値で示すことができませんでしたが、コロナ禍の中でも、地域の自然や歴史、特産物に触れる取組を各校において工夫しながら実施しました。 ・コロナ禍以前の活動を行うことが難しい中、活動場所を実地からオンライン上に変更したり、活動する時間を短くしたりするなどの工夫により、可能な限り文化や芸術に触れる機会を確保しました。
	課題等	・コロナ禍のため、実地での見学や体験活動が制限されたことから、児童生徒が地域の自然や歴史に直接触れることで関心を持たせたり、考えさせたりする機会が減少しました。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性 I:計画通りに進めることが適当	対応策等 ・コロナ禍で減少した文化・芸術活動や体験活動の機会を段階的に回復させ、コロナ禍以前の水準に戻していきます。 ・効果的な文化・芸術活動や体験活動が実施できるよう、適宜、活動内容を工夫し、見直していきます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 11
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	健康教育の推進		—	学校教育課
	事業の概要			
健康(こころとからだ)への関心を高める保健指導や、警察や関係機関の方による薬物乱用防止教室等を実施します。また、家庭と連携した、健康な心身をつくるための生活習慣の定着に向けての指導、時代に即した性教育を行います。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	薬物乱用防止教室を実施している学校の割合(学校保健等に関する調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
	目標指標②	朝食を毎日食べている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)96.5 (中)94.5 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)96.6 (中)95.0	(小)95.0 (中)93.9			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の学習内容と関連付けながら、京都府警からの出前授業を活用し、全小中学校において薬物乱用防止教室を実施しました。 ・薬物乱用防止指導員によるDVDやスライド資料を用いた出前授業を通して、薬物乱用の根絶に向け、発達段階に応じた適切な指導を行いました。 ・小中学校において毎月発行する「保健だより」や「給食だより」等を通じて、子どもたちや保護者に対して朝食を食べることの大切さについて周知・啓発を行いました。 ・長期休暇(春休み、夏休み、冬休み)前には、朝食を食べることを含め、生活習慣に留意して過ごすことを指導しました。また、小学校では、多くの学校が、長期休暇明けに「生活リズムチェック」に取り組みました。 ・児童生徒が性に関して正しく理解し、適切な行動をとれるように、保健体育や道徳の授業をはじめ、学校教育全体を通じて指導しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室を実施し、心や体の健康について正しい知識を身に付けるための学習と指導を行うことができました。 ・お便りや長期休暇前の指導等を通して、朝食を摂ることや生活リズムの大切さを周知しましたが、朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小・中学校ともに昨年度よりやや減少しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室については、学校行事や取組との兼ね合いにより、保健体育科の教育課程の指導時期に合わせて行うことが難しい場合がありますが、子どもたちが関心を持って取り組み、学習内容を定着させるためには、できるだけ同時期に実施していくことが望まれます。 ・子どもたちの健康で安全な生活につなげるため、家庭と連携しながら、朝食を食べることの大切さについて、各小中学校にて指導を継続する必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校において、子どもたちが心身ともに健康で安全な生活を送れるよう、各取組を継続して実施します。 ・子どもたちの生活習慣の定着を目指して、朝食を食べることの大切さを引き続き周知・啓発するとともに、家庭と連携した健康管理と指導を継続します。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 12
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進	—	学校教育課
	事業の概要		
児童生徒に危機回避能力の基礎が身に付くよう、災害時や登下校時の通学路の危険から身を守るための指導や交通安全指導、避難訓練などを計画的に実施します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	防犯、交通安全教室を実施している学校の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
内 容							
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、3,4年の社会科の学習の中で、防犯や防災、交通安全に関することを学び、5年の社会科の学習の中で、自然災害に関することを学びました。中学校では、保健体育の授業の中で、防犯や交通安全、自然災害に関することを学びました。 ・防犯に関する教育は、小中学校共に講師を招き、学校の状況に応じて対象学年を設定し、非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施しました。 ・交通安全については、小学校では市交通政策課が学校を訪問し、自転車の乗り方に関わる交通安全教室等を実施しました。 ・各学校では、地震、火災、風水害に対する避難訓練を実施しました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校共に、外部講師を招き、防犯及び交通安全に関する教室を実施したことで、犯罪に対する知識や防犯意識、規範意識等に対する認識が一層深まりました。 ・小中学校の在学期間をとおして、発達段階に応じて防犯・交通安全及び自然災害に関することを系統的に学ぶことで、身の回りにある危険を予測し、未然に防ぐための方法や、事故や事件、災害に遭った場合の対応について理解を深めることができました。 ・地震や火災等に対する避難訓練を通して、有事の際に自分自身の身を守るためにどのような行動をとればよいか、体験的に学ぶことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一の場合に備え、外部講師を招いての各種教室の開催や避難訓練、また、小中学校の教科を通じて、発達段階に応じた学習を計画的に実施すること等により、防犯・交通安全・防災に関するより一層の意識付けをすることが必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部組織や講師を招聘する機会や時期を、コロナ禍以前の状態に戻し、非行防止教室や安全対策に係る取組を実施します。 ・引き続き、防犯・交通安全・防災に関する各種教室の実施や小中学校における発達段階に応じた教科による学習、また避難訓練等を実施します。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 13
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	安全管理の充実		17,417,547	学校教育課
	事業の概要			
学校における保健管理や、定期的な施設・設備の安全点検等を実施するとともに、危機管理マニュアルの作成や学校安全計画を推進し、学校の安全管理を充実します。また、通学路における安全の確保に努めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	小学校通学路の安全点検対策調査の実施				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	全校区実施(令和元年度)	目標	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施
		実績	全校区実施	全校区実施			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・消防点検・電気点検・エレベーター点検・遊具の点検等、法律に基づいた各種法定点検を実施し、不具合があったものについては緊急を要するものから優先的に、修繕を行いました。 ・樹木医による樹木点検も実施し、危険な樹木については伐採を行いました。 ・空調に不具合が生じた際は、児童生徒の健康に悪影響を及ぼさないよう、速やかに対応しました。また、それ以外にも、学校施設や設備等に不具合が発見された事象については、随時修繕等を行いました。 ・学校環境衛生基準に照らし合わせ、換気・採光・照明および保温等の点検を実施しました。そのうえで、基準を満たしていないものについては、カーテンでの採光調整・電灯の交換・エアコン設定温度の調整等を行うにより、改善を図りました。 ・危機管理マニュアルの作成や更なる充実について、校長会議内で案内しました。 ・全小学校区を対象に「通学路安全対策調査」を実施し、地域の方等から各小学校を通して報告された約100件の調査結果を元に、警察や道路管理者等、関係機関の協力のもと、電柱幕の掲示や、薄くなった道路標示の引き直し等の対策を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、継続的に各取組をきめ細やかに実施し、対応することにより、通学路を含めた学校内外の安全を確保することができました、 ・学校施設や設備等の点検・改善を随時実施することにより、安全管理が充実するだけでなく、不具合箇所の特定と、その改善状況等も整理することができ、危機管理マニュアルの作成・更新や学校安全計画の立案に役立ちました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策において、根本的な対策が困難かつ長期間を要する危険箇所の対策が課題です。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>I: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・根本的な解決が困難かつ長期間の対策を要する危険箇所については、関係機関等と協議しながら、継続的に取り組んでいきます。 ・年度を超えて対策が必要な案件に関しては、「交通安全プログラム」等、長期案件を多く取り扱う、別の取組でも取り扱う等の工夫をします。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・根本的な解決が困難かつ長期間の対策を要する危険箇所については、関係機関等と協議しながら、継続的に取り組んでいきます。 ・年度を超えて対策が必要な案件に関しては、「交通安全プログラム」等、長期案件を多く取り扱う、別の取組でも取り扱う等の工夫をします。
方向性	対応策等				
I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・根本的な解決が困難かつ長期間の対策を要する危険箇所については、関係機関等と協議しながら、継続的に取り組んでいきます。 ・年度を超えて対策が必要な案件に関しては、「交通安全プログラム」等、長期案件を多く取り扱う、別の取組でも取り扱う等の工夫をします。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 14
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが生涯を通して健やかな心身をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられるとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	食育の推進と安全・安心な給食の提供	411,662,028	学校教育課
	事業の概要		
学校給食を活用した食に関する指導を実施し、食中毒対策や食物アレルギー対応などに努め、安全で安心かつ、栄養バランスのよい魅力あるおいしい学校給食を提供します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校給食(副食)の残食率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)なし (今後測定予定) (中)1.65 (令和元年度)	目標	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持
		実績	(小)1.6 (中)2.3	(小)1.6 (中)1.7			
内容 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、給食時間に児童生徒に直接食育指導を行う機会は持てませんでしたが、動画視聴や放送を通して給食への理解を深める取組を行いました。 ・学校薬剤師の立入検査や市職員による巡回指導を実施し、衛生的な給食提供に努めました。保健所の食品衛生監視票に基づく点検結果をもとに、適宜改善を行いました。 ・児童生徒の食物アレルギー対応を確実にするため、医師会の指導のもと、アレルギー様式の見直しを行い、新様式での対応を行いました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では前年(R3年度実績:1.6)と変わらない低い残食率となりました。中学校では給食指導の体制が確立されてきたことにより、前年度と比べて、さらに残食率を下げる事ができました。 ・小・中学校ともに、バランスのよい魅力ある給食を提供することができました。
		<ul style="list-style-type: none"> ・献立や季節により残食の多い日があります。 ・喫食量は、学年が上がるにつれ個人差が大きくなっています。個に応じたバランスの取れた栄養量の摂取についても指導していく必要があります。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通して、食に関する指導を継続し、子どもたちの健康推進に取り組みます。 ・食中毒を防止し、食物アレルギー対応を徹底することで、安全・安心で魅力のあるおいしい給食を提供します。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通して、食に関する指導を継続し、子どもたちの健康推進に取り組みます。 ・食中毒を防止し、食物アレルギー対応を徹底することで、安全・安心で魅力のあるおいしい給食を提供します。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通して、食に関する指導を継続し、子どもたちの健康推進に取り組みます。 ・食中毒を防止し、食物アレルギー対応を徹底することで、安全・安心で魅力のあるおいしい給食を提供します。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 15
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	学校体育・スポーツ活動の推進(小・中学校)	4,909,760	学校教育課
	事業の概要		
「全国体力・運動能力調査」の結果を分析し、子どもが運動することの楽しさを実感し、進んで運動する習慣が身に付くような体育の授業づくりの推進や地域人材の活用等を行います。また、部活動への大会出場に係る費用等の一部補助やふるさと納税を活用した各校の遊具購入等や部活動の備品購入を行い、部活動やその他の行事の充実に努めます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	体力・運動能力の総合評価D、E層の児童・生徒の割合(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小5)男子26.3 女子25.9 (中2)男子30.2 女子7.2 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小5)男子45.7 女子51.5 (中2)男子30.8 女子14.1	(小5)男子38.6 女子31.1 (中2)男子26.2 女子14.5			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税を活用し、高跳び用マットやプールコースセット、剣道打込台等の備品を購入し、部活動やその他行事で使用しました。 ・選手派遣補助金制度により、中学校部活動で、京都府大会・近畿大会・全国大会に出場の生徒達に、遠征費を補助しました。 ・学校体育・文化活動推進事業補助金制度により、各運動部で構成される協議会へ補助金を交付しました。 ・一部の中学校部活動では、専門的な知識や技能を持ち合わせた外部講師を招き、指導を受ける取組を実施しました。 ・身体接触の回避等の感染症対策を講じながら、できる限り運動量を確保した体育の授業に取り組みました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合 (目標の80%~100%程度)	<p>・コロナ禍で制限があるなか、外部講師を招聘した部活動の実施や、ふるさと納税を活用した備品等購入、また、各種補助金の交付の実施により、児童生徒の運動習慣や体力づくりにつながる遊び、体育の授業及び部活動等の取り組みの充実が図られました。</p> <p>・令和3年度の状況と比較し、目標指標の割合は、小学校5年生男子では7.1%、女子では20.4%、中学校2年生男子では4.8%減少しました。中学校2年生女子では0.4%の微増でしたが、全体として体力の向上傾向が見られました。</p>
	課題等	<p>・コロナ禍で身体接触の制限等があり、従来通りの体育の授業を行うことができず、体力・運動能力の向上につながる運動量を十分に確保できなかったことが課題です。</p>

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、部活動での外部講師の招聘、各種補助金の交付を実施し、部活動やその他の行事の充実に図ります。 ・密集する場面や身体接触の回避等、本来の動きに制限がかかる種目がありましたが、次年度以降は様々な制限が解除されるため、体力・運動能力の向上につながる運動量を確保した授業に積極的に取り組んでいきます。

基本目標	Ⅰ	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 16
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	特別支援教育の充実		25,053,083	学校教育課
	事業の概要			
合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画等の作成と活用、インクルーシブ教育の視点を踏まえた理解教育の充実に努めるとともに、市支援員の配置による支援を行います。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	特別な支援を要する子どもに係る個別の指導計画が作成されている割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> 全ての特別支援学級・通級指導教室の児童生徒に対して個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、各校での作成状況を教育委員会が点検しました。 児童生徒の実態に応じて、小学校に特別支援教育支援員、中学校に学力向上サポーターを配置し、個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画を用いて、児童生徒の支援にかかる各小中学校と保護者との連携をより図ることができました。 特別支援教育支援員や学力向上サポーターを配置したことにより、児童生徒の学習面・生活面においてきめ細かな支援、指導を行うことができました。
		<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校において、特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあります。 通級指導教室は、各小学校に1~2教室、中学校には計2教室を設置していますが、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への支援体制の充実が求められます。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ⅰ:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、小中学校に特別支援教育支援員・学力向上サポーターを配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して個々の教育的ニーズに合ったきめ細かな支援を行います。 児童生徒の実態と教育的ニーズを踏まえた個別の教育支援計画等の充実に取り組み、保護者との連携を図ります。 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	Ⅰ:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、小中学校に特別支援教育支援員・学力向上サポーターを配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して個々の教育的ニーズに合ったきめ細かな支援を行います。 児童生徒の実態と教育的ニーズを踏まえた個別の教育支援計画等の充実に取り組み、保護者との連携を図ります。 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。
方向性	対応策等				
Ⅰ:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、小中学校に特別支援教育支援員・学力向上サポーターを配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して個々の教育的ニーズに合ったきめ細かな支援を行います。 児童生徒の実態と教育的ニーズを踏まえた個別の教育支援計画等の充実に取り組み、保護者との連携を図ります。 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 17
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援		316,230	学校教育課 教育支援センター
	事業の概要			
特別支援学校等と連携した専門家チームによる巡回相談等を行います。また、教育支援センターとの連携による就学相談等との情報共有に努めます。				

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標	関係機関との連携、情報共有					単位	-
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	連携、情報共有 の実施 (令和元年度)	目標	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	
		実績	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施				
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では、各校の児童生徒の実態に応じて、特別支援学校や盲学校の巡回相談員に巡回相談を依頼し、必要な指導上の助言を受けました。 ・就学前相談では、庁内の関係機関(健康づくり推進課・障がい福祉課・子育て支援課)と情報を共有の上、教育支援センターと学校教育課が連携し、幼児教育施設へ訪問しました。訪問先の幼児教育施設では、児童の行動観察や指導者・保護者との面談を行い、最も適した学びの場について審議しました。 ・各校からの就学相談の依頼については、教育支援センターと連携し、発達検査や保護者面談を行い、早期支援を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や盲学校の巡回相談を継続的に受けたことにより、障がいに応じた指導のポイントや教材作成についての理解が深まり、児童生徒への支援が充実しました。 ・就学相談の依頼を受けて発達検査を実施し、適切な支援の方法について、学校・保護者と情報共有ができました。 ・児童生徒の状況に応じて、療育機関、障がい福祉課とも連携をして、児童生徒の個別の課題へのよりよい手立てや学びの場の検討を行いました。
		<ul style="list-style-type: none"> ・増加する就学相談に対し、担当教員の専門性の向上と教育支援センターの相談体制の確保が課題です。 ・最新の発達検査(WISC-V)ができる人材育成が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	対応策等
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き就学相談等において関係機関と連携・情報共有を密に図り、児童生徒に必要な支援を早期かつ適切に行います。 ・研修等を通して担当教員の専門性を高め、増加する就学相談に適切に対応します。 ・最新の発達検査(WISC-V)をより活用できるよう、関連研修についての情報提供を行います。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 18
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要

P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	学校における指導体制及び学習環境の充実	—	学校教育課
	事業の概要		
ながおきょう“リンク・ブック”の活用や、市特別支援学級担任会や通級指導者担当者会等の実施により、特別支援コーディネーターを中心とした校内の指導体制を確立します。また、通級指導教室の充実に努めます。			

令和4年度の取組

D (取組)	目標指標①	特別支援コーディネーターを中心とした校内指導の実施				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	指導の実施 (令和元年度)	目標	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施
		実績	指導の実施	指導の実施			
	目標指標②	教員は特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)75 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する理解や指導の充実のため、各校での校内研修や、教育支援センター等関係機関と連携した研修を実施しました。 ながおきょう“リンク・ブック”を活用し、児童生徒の特性に関する理解を深め、個々の状況に応じた指導上の工夫を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価

令和4年度の達成状況

C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心として情報共有を定期的に行いました。また、児童生徒の個々の状況に応じて適宜検討の場を設けたことにより、充実した指導体制となりました。 保護者との連携のもと、ながおきょう“リンク・ブック”を活用し、児童生徒の特性に関する理解を深めることにより、個々の状況に応じた指導上の工夫を行うことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の特性が多様化しているため、個々の教育的ニーズを的確に把握し、より一層きめ細かな指導をする必要があります。 特別支援教育の中心を担う人材の育成と校内全体の指導力の向上が課題です。 通級指導教室での指導が必要な児童生徒が増加傾向にあるため、支援体制の充実が求められます。 		

次年度以降の対応

A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 市特別支援学級担任会や通級指導者担当者会等を計画的に実施し、専門性を持った人材育成と指導力の向上に取り組みます。 各校では、引き続き特別支援コーディネーターを中心とした研修を積み重ね、特別支援教育に対する学校全体の理解と指導力の向上に取り組みます。 各学校の状況を踏まえ、通級指導教室の効果的な設置と運営を進めます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 19
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		いじめの問題等への対策	893,600
	事業の概要		
	いじめ等対策指導員を配置するほか、いじめアンケート及び聞き取り調査や各校でのいじめ防止対策推進委員会を実施します。また、府配置のスクールカウンセラーや教育支援センターの教育相談員による教育相談を活用し、いじめについての対策を行います。		

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	重大事案発生件数				単位	件数
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0 (令和元年度)	目標	0	0	0	0	0
		実績	0	0			
	目標指標②	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
(小)98.7 (中)95.9 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	
	実績	(小)96.4 (中)97.7	(小)96.1 (中)96.3				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では年間2回のいじめ調査(いじめアンケート、聞き取り)を行い、「いやな思いをした」児童生徒については、約3か月後に再度事象が継続していないかなどの確認を行いました(追跡調査の実施)。併せて、定期的にいじめ対策委員会を中心に情報の共有を図り、いじめの未然防止、早期発見と早期対応に努めました。 ・いじめ等対策指導員を1~2か月に1回程度各校へ派遣し、生徒指導や不登校、虐待等の状況把握と早期支援に取り組みました。 ・全小中学校ではいじめ防止に関わる校内研修を開催し、教職員の意識向上を図りました。 ・市内小中学校校長会議等において、いじめや生徒指導事象に係る情報提供と情報共有を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知件数は、昨年度に比べて小学校ではやや減少し、中学校ではやや増加しました。学校が確実に認知件数を把握することにより、いじめの未然防止と早期発見・早期対応につながっています。 ・学校は、定期的な問題事象報告だけでなく、いじめ事象や生徒指導事象の態様に応じて、速やかに市教委へ報告し、連携・協力しながら対応することができました。 ・いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の出席状況・学習状況・生活環境などを把握し、教職員との情報共有を行うことで、いじめにつながる芽の早期発見につながりました。 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思う児童生徒の割合は昨年度より若干減少しましたが、高い割合を維持しています。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ともに、「冷かし・悪口」が認知件数の大半を占めています。小学校ではスマートフォン等を利用したSNS上での誹謗中傷が増加しており、表面化しづらいトラブルが発生しています。 ・コロナ禍でのマスク着用やソーシャルディスタンスなどの様々な制限により、児童生徒に不安感やストレスなどの心理的要因が生じ、周囲との対人関係にも影響を及ぼしていると考えられます。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境等を把握し、教職員との情報共有と早期支援に努めます。 ・「いじめ防止等のために~教職員用ハンドブック~」等を活用しながら計画的に研修を行い、全教職員のいじめに対する認識と組織としての対応力を継続して高めていきます。 ・各校においては、教職員の情報共有の場やいじめ対策委員会を中心としたスクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの連携、また、学校教育課や教育支援センター、子育て支援課等の関係機関と連携しながら、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等に努め、組織的に対応していきます。 ・引き続き、市内小中学校校長会議、教頭会議等において、いじめや生徒指導事象等に係る情報提供や情報共有、意見交流を行っていきます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 20
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿		障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備		2,403,378	教育支援センター
	事業の概要			
不登校やいじめ、心身の発達、学習や学校生活など様々な課題や相談への対応を行うとともに、不登校児童生徒の学習等の場としてアゼリアひろばの運営、メンタルサポーター(心理の専門家)の派遣など、不安や悩みを抱える子どもへの支援体制を整備します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6) 84.7 (中3) 81.4 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小6) 81.3 (中3) 86.0	(小6) 83.2 (中3) 83.9			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士等による心理相談やプレイセラピー(児童生徒の遊戯療法)、特別支援教育士による発達検査や就学相談、児童精神科医によるDr.来所相談などを実施し、教育相談による児童生徒、保護者に対する心理面、発達面での支援を行いました。また、学校との連携も積極的に行い、児童生徒に対する教職員の指導力、実践力向上につながる助言を行いました。 「アゼリアひろば」において、不登校児童生徒の社会的自立を目標に、指導員や仲間との触れ合いを大切にしながら、学習活動や体験活動を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による教育相談の件数は、延べ件数1,755件(実件数114件)でした。また、特別支援教育士による就学相談の件数は1,030件(実件数181件)でした。 保護者に対しては専門的な立場からカウンセリング等指導助言を行いました。また、教職員に対しては、直接学校に訪問し、授業を参観するなど、積極的な連携を行い、児童生徒の適切なアセスメントや指導の在り方などの助言を行いました。 これらの教育相談、学校との連携は、児童生徒の心の変化や安心して快適に過ごせる居場所づくりに寄与できました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 「アゼリアひろば」や教育相談の仕組みの情報提供が、保護者、学校に対して不十分な部分があります。 多様な不登校の姿に対応できる「アゼリアひろば」の仕組みや物理的な環境整備が必要です。 保護者、児童生徒、教職員のニーズに応えられるよう、さらなる相談員のスキルアップが必要です。 不登校児童生徒に対する効果的な支援の在り方についての検討、実践が必要です。 	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 「不登校研究部門」を設立し、長岡京市の不登校の状況を把握し、長岡京市として必要な支援の在り方を探り、施策として実現させていきます。具体的な方向性としては、各小中学校の不登校児童生徒の居場所としての「別室」の充実を目指します。また、安心して快適に過ごせる居場所づくり実現のため、困難を抱える児童生徒の早期発見及び支援ニーズの適切な把握(スクリーニングとアセスメント)をICTを活用して行います。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 「不登校研究部門」を設立し、長岡京市の不登校の状況を把握し、長岡京市として必要な支援の在り方を探り、施策として実現させていきます。具体的な方向性としては、各小中学校の不登校児童生徒の居場所としての「別室」の充実を目指します。また、安心して快適に過ごせる居場所づくり実現のため、困難を抱える児童生徒の早期発見及び支援ニーズの適切な把握(スクリーニングとアセスメント)をICTを活用して行います。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 「不登校研究部門」を設立し、長岡京市の不登校の状況を把握し、長岡京市として必要な支援の在り方を探り、施策として実現させていきます。具体的な方向性としては、各小中学校の不登校児童生徒の居場所としての「別室」の充実を目指します。また、安心して快適に過ごせる居場所づくり実現のため、困難を抱える児童生徒の早期発見及び支援ニーズの適切な把握(スクリーニングとアセスメント)をICTを活用して行います。 				

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 21
基本施策	(5)	変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	
実現したい学びの姿	将来の夢や目標を持ち、進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や、グローバル化などの社会の変化に柔軟に対応できる能力を身につける教育を推進しています。また、ICT環境の整備により情報教育のための環境が整っています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	キャリア教育の推進	630,697	学校教育課
	事業の概要		
体験活動や社会人講師の活用を通して、子どもたちの「学びたい」「働きたい」という意欲を高めるとともに、明確な目的意識を持って自己の進路を選択する力を身につけるため、発達の段階に応じたキャリア教育を推進します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)60.0 (中)75.0 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)70 (中)100	(小)80 (中)100			
D (取組)	目標指標②	職場見学や職場体験活動を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)60 (中)100	(小)100 (中)100			
内容	<p>・小学校では仕事の意義を考えたり、将来就きたいと思う職業について考えを深める学習を行いました。中学校では自分の適性を知り、職業観について考えを深めながら、自分に合った進路を選択し実現に向けて努力できるよう学習を進めました。</p> <p>・コロナ禍のため、令和4年度は職場見学・体験活動は実施しませんでした。しかし、各校ともキャリア教育を重要とらえ、職場見学や職場体験活動に代わる取組を実施しました。小中学校とも、地域の企業や様々な分野で活躍されている社会人講師を招き、講演会や出前授業(仕事体験、文化体験等)を実施しました。また、小学校では社会見学にも力を入れています。ものづくりの楽しさ、仕事や活動にかける思いなど、直接学ぶことで自身を振り返り、将来に向けて考える機会となりました。</p>						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	課題等	<p>・コロナ禍の対応として、令和4年度は職場体験活動を見合わせましたが、各小中学校で、社会人講師を招いた講演や体験活動、社会見学等を実施しました。職業や社会的自立について直接学ぶことで、様々な仕事や活動が世の中で果たす役割について、改めて考えることができました。</p> <p>・職場体験等の実施にあたっては、事業所等に理解と協力を求め、より多くの受け入れ事業所を確保することが必要です。</p>

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>・児童生徒が自分の将来を見据え、学ぶことの意義を実感できるよう、引き続き発達段階に応じたキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>・児童生徒の意欲を高め、進路選択に必要な知識と実践力を身につけられるよう、各教科の学習や体験的な活動等をさらに充実させます。</p> <p>・中学生の職場体験活動については、体験先の事業所等と連携を図りながら、令和5年度からの再開に向けた調整や準備を進めます。</p>

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 22
基本施策	(5)	変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	
実現したい学びの姿	将来の夢や目標を持ち、進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や、グローバル化などの社会の変化に柔軟に対応できる能力を身につける教育を推進しています。また、ICT環境の整備により情報教育のための環境が整っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成		160,025,072	学校教育課
	事業の概要			
ICT機器の活用やプログラミング的思考(論理的思考力)の向上、情報活用能力を育成します。また、ネットトラブルなどから子どもを守るための取組を推進します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	85.2(令和元年度)	目標	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0
		実績	※国調査:質問項目削除	※国調査:質問項目削除			
	目標指標②	情報モラルの指導を実施している学校の割合(教育課程実施状況調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校生活において、タブレット端末の積極的な活用が図られました。 令和4年度は「教科の学びを深めること・本質に迫ること」を目標に、授業支援アプリの活用、ICT活用サポーターの配置、大型モニターとの連動等により、児童生徒の学びがさらに充実したものになるよう取組が進められました。 学校での安定運用を図るため、教員向けに授業力向上に係る研修を実施し、ICT活用サポーターやヘルプデスクによる支援体制を整備しました。 家庭学習での活用や学級閉鎖等に伴うオンライン学習の実施に備え、インターネット環境のない就学援助世帯等に対してWi-Fiルーターの貸出しを行いました。 校内インターネット回線の改善により通信環境の安定化が図られ、授業でのタブレット端末の活用機会がさらに拡大しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒がICT機器を使用する機会が増え、授業や学校行事、家庭学習等におけるタブレット端末の活用推進が図られました。 指標については「全国学力・学習状況調査」の質問項目から削除されましたが、教育支援センター実施の調査では、タブレット端末を使ったことで「積極的に学習に参加することができたと思う」と答えた児童生徒は、小中学校の全学年で9割を超え、「課題の解決に向けて、自ら考え、取り組むことができたと思う」と答えた児童生徒の割合が令和3年度より増加したことから、タブレット端末を活用した質の高い学習活動によって児童生徒の主体的・対話的で深い学びが促進されていると考えられます。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用状況は学年間で異なり、特に小学校低学年での活用が進みにくい点が引き続き課題です。児童生徒がそれぞれの発達段階に応じた資質・能力を身につけ、学びを深められるよう、計画的な指導が求められます。 教員間でICT活用スキルに個人差があるため、引き続き教員向け研修や運用面でのサポート体制が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒がタブレット端末を日常的に使用する場面をさらに増やし、ICT機器をより効果的に活用した質の高い授業づくりを実践します。 児童生徒の個別最適で協働的な学びにつなげるため、教職員が実践研修等を通して資質・能力の向上を図り、発達段階に応じた指導を分かりやすく行います。

基本目標2

持続可能な教育施策推進のための 環境整備

基本施策(6) 学びを支える環境の整備 (通番23~27)

基本施策(7) よりよい学校づくりの推進 (通番28~30)

基本目標 2

学識経験者の主な意見

<通番 23 「指導内容に対応した教材、備品の配備」>

- ICTに係るモラル教育については、すでに京都府や教育支援センターなどで研修が行われている。現在、様々なアプリケーションが出てきており、ICT に関する新たな問題が起こりつつあるため、今後、子どもに対する教育と合わせて、教員に対するモラル研修なども充実していく必要がある。また、モラル研修だけでなく人権意識の向上についても、教員に周知してほしい。

<通番 27 「持続可能な学校指導体制の環境整備」>

- 1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合は、全体的に減少しており、改善が見られる。ただ、勤務時間が短くなると働きやすくなるという単純な問題ではなく、職場環境や人間関係も大きく関わっているため、教職員が一人で抱え込むことなく、組織的に対応する体制づくりが必要である。

<通番 29 「地域とともにある学校づくり」>

- 今年度は、地域に定着していた伝統的な行事も再開している。しかし、行事の再開にあたり、地域、学校、行政など関係者間での調整を十分に行わないまま、日程や開催方法を大きく変更しているケースもあり、地域との摩擦が生じていることも課題となっている。地域とともにある学校づくりのため、地域の方には丁寧な説明をし、協力をお願いする必要がある。
- 学校運営協議会への移行については、学校評議員制度からスムーズに移行できたとお聞きした。他の自治体では、学校運営協議会への移行を疑問視する声も聞くが、教育委員会としては、地域の方の意見について合意形成されたものを学校運営協議会を通して聞けるという点で、メリットが大きいと感じた。
- 地域とともにある学校作りについて、それぞれの地域と学校の関係がより緊密になっていることは、評価できる。ただ、読書ボランティアの取り組み等では地域によりかなり小学校間で温度差が見られるようで、成功例を共有するなどの取り組みが必要ではないか。

<通番 30 「外部人材の活用」>

- 大学でも地域に貢献できるよう様々な講座を検討している。外部講師や地域人材を上手く活用して、充実した学校づくりを進めてほしい。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 23
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿	ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		指導内容に対応した教材、備品の配備	22,678,506
事業の概要			
新しい時代の学校教育の指導内容に応じた学習用タブレット端末等の各種教材や教育用備品などの導入促進、適切な配備を行います。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)90 (中)100 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100			
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校が日常的にICTを活用した授業を行いました。 ・タブレット端末と大型モニターを連動させ、子どもが作成した資料を投影して学級内で共有するなど、ICT機器を活用した授業が積極的に行われました。 ・全普通教室に大型モニターを設置し、写真や動画の教材、資料等を投影して視覚支援に役立てるなど、全ての子どもたちにとって分かりやすい授業づくりに取り組みました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内でタブレット端末と大型モニターが容易に連動できるよう必要な機器を配備し、授業での積極的なICT活用につながりました。 ・タブレット端末に授業支援ソフトを搭載し、授業での円滑で効果的な活用ができました。 ・指導者用デジタル教科書を配備し、大型モニター等を用いて分かりやすい授業づくりができました。 ・タブレット端末用アプリケーションを適宜搭載し、個に応じた学習の環境整備ができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターの故障や老朽化への対応が課題です。 ・タブレット端末の活用にあたっては、教員間で個人差があるため、ICT活用サポーターや研修等による教員へのサポート体制が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き普通教室に大型モニター等の表示装置を設置するなど、ICTを活用した授業を行える環境を整備します。 ・研修や授業事例の共有、ICT活用サポーターの巡回訪問やヘルプデスク設置によるサポート等を通して、タブレット端末を効果的に活用した授業づくりを進めます。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 24
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿	ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	就学や進学に対する支援体制の充実		59,117,605	学校教育課 教育総務課
	事業の概要			
経済的な理由により就学困難な子どもの保護者に対する学用品費等の必要経費の援助や高等学校等の進学が困難な家庭に対する奨学金に関する情報提供を行います。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	就学援助支援事業の実施				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	実施 (令和元年度)	目標	実施	実施	実施	実施	実施
		実績	実施	実施			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市就学援助規則に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童、生徒に対して援助費を支給しました。 ・就学援助制度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により所得が減少したり、申請時期を逸した保護者に対しても、個々の状況に合わせて適宜対応しました。 ・新たに就学する小中学校1年生の保護者に対して、入学前に新入学学用品費を支給しました。また、新入学学用品費(小学生分)の引き上げに伴い、対象者へ増額分の追加支給を行いました。 ・「市ホームページ」や「学校だより」への掲載、「入学説明会」での案内文書の配布により、就学援助制度についての情報提供を行いました。また、新小学校1年生の保護者へ送付する「就学時健康診断の案内文書」に入学前支給に関する文書を同封し、周知をしました。 ・家庭へのタブレット持ち帰りで、Wi-Fi環境が整っていない家庭にモバイルルータの無償貸出を行いました。 ・京都府及び京都府教育委員会発行の「就・修学及び進学・就職を支援するための援護制度一覧」を常設し、奨学金やその他援護制度に関する問い合わせがあった場合に制度の案内をしました。 ・就学援助制度の個別対応時に、必要に応じて、生活保護をはじめとする各種支援制度についても関係部署と連携を図りながら案内をし、可能な限り情報提供を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 ・経済的な理由により就学が困難な児童、生徒の保護者に対して、学校生活に係る学用品費等の必要経費の援助やモバイルルータの無償貸出を行い、家庭の負担軽減へと繋がりました。 ・また、経済的な理由により高等学校への進学が困難な保護者に対して、奨学金等に関する情報を提供したことにより、経済的支援の充実を図りました。
	課題等	コロナ禍で所得が減少したり、申請時期を逸した世帯に対する就学援助の柔軟な対応が引き続き必要です。	

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	I:計画通りに進めることが適当 ・引き続き、適宜審査のうえ、経済的な理由により就学が困難な児童、生徒の保護者に対し、就学援助を実施します。また、モバイルルータの無償貸出も引き続き行います。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、所得が減少したり申請時期を逸した保護者に対しても、引き続き柔軟に対応します。 ・必要に応じて、生活保護をはじめとする各種支援制度についても、関係部署と連携を図りながら案内をし、可能な限り情報提供を行います。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 25
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿	ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	学校施設安全・快適整備		339,873,980	教育総務課
	事業の概要			
児童・生徒の安全・安心と快適な学校生活、充実した学習環境などの実現のため、施設整備を行います。外壁改修等の安全対策、空調整備、教室等照明LED化等の環境整備により学校施設の機能性能の向上を図ります。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	特別教室の空調設置率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	63.8 (令和2年度)	目標	67.0	73.0	78.0	84.0	90.0
		実績	67.0	78.0			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡第六小学校や長岡第九小学校の特別教室に空調整備を行いました。 ・残りの空調未設置特別教室に対して空調工事の実施設計を行いました。 ・長岡第九小学校は、エレベーター設置工事を行いました。 ・長岡中学校は、貯水槽改修工事の実施設計を行いました。 ・長岡第三中学校は、貯水槽改修工事に取り掛かりました。 ・長岡第四中学校は、貯水槽改修工事を行いました。 ・体育館・武道場照明のLED化工事の実施設計に取り掛かりました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室の空調整備は、優先度の高さから早期の整備完了を目指すため、空調未設置の特別教室全てについて実施設計を行い、教育環境の整備を進めることができました。 ・長岡第九小学校は、エレベーターを設置しバリアフリー化を図りました。給食室増改築工事は、工事予定地の地中埋設物の影響により、完成時期が延期となりましたが、学校運営に支障が及ばないように学校と調整や必要な対応を行い、引き続き実施しています。 ・部活動や地域開放で使用頻度の高い体育館や武道場の照明について、LED化工事の実施設計に取り掛かり、学校施設における環境性の向上を進めることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室や特別教室と同様に、児童・生徒が利用する体育館や武道場についても熱中症対策として空調整備が求められています。 ・学校によって、抱えている施設の課題や老朽化の状況は様々なため、個々の現状を理解し、改修計画を考える必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に策定した学校施設の個別施設計画について、状況の変化に合わせて適宜改定を行い、計画に基づき施設の長寿命化を図るための工事等を実施します。 ・学校における設備の省エネ化・高効率化を図り、環境負荷を低減します。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 26
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿	ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	学校施設再整備事業	375,767,234	教育総務課
	事業の概要		
老朽化等の課題がある学校施設の建替えによる再整備を検討・実施します。			

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標①	長岡第四小学校再整備の進捗状況					単位	-
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	基本設計(令和2年度)	目標	実施設計	校舎工事	校舎工事	体育館等工事	外構工事、工事完了	
		実績	実施設計	校舎工事				
	目標指標②	長岡第三小学校再整備の進捗状況					単位	-
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
配置検討(令和2年度)	目標	配置検討	基本設計	実施設計	校舎工事	校舎工事		
	実績	配置検討	埋文調査(試掘) 耐力度調査					
内容	<ul style="list-style-type: none"> 長岡第四小学校再整備は、令和4年6月22日に契約を締結し、校舎工事に取り掛かりました。 長岡第三小学校再整備は、基本設計における建物の配置に必要な情報を把握するため、埋蔵文化財発掘調査(試掘)を実施しました。また、補助金要件の確認のため、耐力度調査を実施しました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 長岡第四小学校再整備は、計画どおり校舎工事に取り掛かりました。 長岡第三小学校再整備は、基本設計業務には取り掛かれなかったものの、建物の配置に影響する埋蔵文化財の状況確認のために試掘を実施し、また基本設計時に実施する予定であった耐力度調査について、財源の見通しを把握したうえで事業規模等の検討を進めるために先行して実施するなど、基本設計に向けて準備を進めました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 長岡第四小学校再整備は、事業規模が大きく、長期にわたるため、多岐にわたる調整事項を処理しながら、進捗管理を適切に行う必要があります。 長岡第三小学校再整備は、早期の着工を目指しているが、事業費の抑制や環境への配慮を目指したZEB(Net Zero Energy Building)化などの検討や、学校・地域の合意を得ながら設計を進める必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 長岡第四小学校再整備は、令和5年度が本格的な校舎工事となるため、学校と連絡・調整を図りながら、引き続き安全対策を徹底し、工事のスケジュール管理を行います。 長岡第三小学校再整備は令和4年度に実施した調査の結果を踏まえ、令和5年度から基本・実施設計に取り掛かります。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 27
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿		ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	持続可能な学校指導体制の環境整備		39,472,789	学校教育課
	事業の概要			
教員業務の見直しや在校時間の適切な把握、校務支援システムの活用等をより一層推進し、教職員の長時間労働の改善に取り組みます。また、外部の人材活用や学校業務時間外の自動音声応答メッセージシステムによる電話対応、スクールロイヤー制度の活用により、教員が教育活動に専念できる環境整備に努めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	17.2 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	14.5	13.4			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務状況について、出退勤管理システムを用いて把握しました。 ・教職員の心身の健康状態を確認するため、健康診断やストレスチェックを実施するとともに、各校においては、管理職や衛生推進者から長時間勤務の教職員に対して個別に声かけをする等、勤務状況の改善に取り組みました。 ・会議や行事等の精選や資料のペーパーレス化、留守番電話の定着、ノー部活動デーの設定、外部人材(学校教育支援員、図書館司書、教員業務支援員等)の配置・活用といった環境整備に取り組みました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援員等を配置することで、教職員の業務の負担軽減を図ることができました。 ・健康診断やストレスチェックを行うことで、教職員の心身の健康の維持を図ることができました。 ・各校においては、会議や行事の見直し等を行い、業務改善が図られました。 ・タブレット端末等のICT機器や校務支援システムを積極的に活用し、資料のペーパーレス化が進むことで、業務の改善を推進することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外における在校時間の長さや負担感の改善が求められています。 ・地域・保護者の対応などの課題に対し、教職員が一人で抱え込むことなく、組織的に対応する学校体制が求められます。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実情に合わせて、会議の精選や資料のペーパーレス化など、引き続き業務の負担軽減に取り組みます。 ・健康診断やストレスチェックの受診を奨励し、衛生推進者を中心に心身ともに健康な職場づくりに取り組みます。 ・教職員が一人で抱え込むことなく組織的に対応する体制づくりを推進します。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 28
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿	地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。		

概 要

P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	教職員研修事業	786,888	教育支援センター
	事業の概要		
学校教育におけるさまざまな課題の解決と新たな研究の推進をめざした、時代の流れに即した研修を行います。また、OJTによる研修やネットを活用した研修形態の導入の検討等、多様な研修機会の充実に努めます。			

令和4年度の取組

D (取組)	目標指標	研修の受講者評価(満足と回答した比率)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	86.7 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	95.7	97.2			
内 容 教職員を対象に各種研修会を行いました。 ・保幼小連携に係る研修会 ※オンライン研修 (1) 講師: 岐阜聖徳学園大学 西川 正晃氏 日程: 令和4年4月12日 参加申込者: 65名 (2) 講師: 大阪総合保育大学 瀧川 光治氏 日程: 令和4年9月7日 参加申込者: 36名 ・経験職務別研修会(初任者研修) 講師: 市職員他 日時: 令和4年8月19日 参加者: 13名 ・教育課題特別研修会 ※オンライン研修 (1) 教育改革 講師: 東京大学 鈴木 寛氏 日程: 令和4年12月26日 参加申込者: 42名 (2) 特別支援教育 講師: 横浜市東部地域療育センター 安倍 陽子氏 日程: 令和4年7月27日 参加希望者: 195名 ・課題特化型研修会 ※一部オンライン研修 (1) 学級経営(年3回) 講師: 乙訓教育局 川上 雅範氏・立正大学 鹿嶋 真弓氏・桃山学院教育大学 松久 眞実氏 参加者: 14名 (2) 特別の教科道徳(年3回) 講師: 立命館大学 牧崎 幸夫氏 参加者: 12名 (3) 教育相談(年3回) 講師: 甲子園短期大学 酒井 律子氏 参加者: 13名							

「実現したい学びの姿」に対する評価

令和4年度の達成状況

C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・保幼小連携に係る研修会では、オンラインで実施したこともあり、保育園、幼稚園の関係者に多く出席いただくことができました。 ・教育課題特別研修会では、今日的課題の定義や教育との関連性について整理された根拠をもとに話があり、子どもたちの視点に立って教育活動を進めていくことの大切さを再認識する機会となりました。 ・課題特化型研修会では、テーマに沿った講義、課題作成、実践交流、講師への質疑応答などを通して、受講者各々の経験年数に応じた資質を高めることができました。特に、学級経営に関しての研修では、講師を3回全て変えることで、多様な視点からの学びにつながりました。 ・経験職務別研修会(初任者研修)は、市内の歴史について再認識する機会となり、校外学習等にすぐに活かせる内容を学習することができました。また、民間企業への訪問は、企業の成長や社員の姿勢から、自らの教職に対する姿勢についても振り返る良い機会となりました。
	課題等	・参加者が興味を持って受講できるよう、本市の現状を踏まえた教育の今日的課題に関する研修を設定できるように努める必要があります。 ・早期に日程調整し、校内研修や行事等と重ならないように、配慮する必要があります。 ・コロナ感染予防対策や教員の移動時間の短縮のために、オンライン研修やハイブリッド型研修を引き続き取り入れていくことが望ましいと考えます。		

次年度以降の対応

A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	・課題特化型研修はこれまで指名型の研修で主体的な参加となっていない実態もあり、教員個人や学校単位で参加が可能でより主体的な参加となりうる教育課題特別研修に特化し、長岡京市としての課題や今日的な教育課題をテーマにした研修を行います。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 29
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿	地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	地域とともにある学校づくり		198,000	学校教育課
	事業の概要			
学校評議員制度の活用と学校評価の実施、学校だよりやホームページ等を活用した積極的な情報配信による地域に開かれた学校づくりに努めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	地域関係者を評議員に入れている学校の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	※新制度に変更			
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から、学校評議員制度に代わり、市立小中学校14校全てに学校運営協議会制度を導入しました。前年度までの学校評議員制度は、校長が教育方針や学校評価等を報告し、評議員から意見をもらうというものでしたが、学校運営協議会制度は、保護者及び地域住民等で構成される委員が校長と共に、学校運営への必要な支援に関して協議する仕組みです。 ・地域住民や保護者、学校長を学校運営協議会委員とし、学校の課題や取り組みについて熟議するための協議会を、各校年数回開催しました。 ・各校では、学校の様子を周知するため、随時、学校の取組等のホームページへの掲載や、学校だよりの発行を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校で、地域関係者を学校運営協議会委員として委嘱することができました。 ・学校運営協議会を設置し、地域関係者の委員と共に学校の運営及び必要な支援に関して協議したことにより、学校と地域関係者が力を合わせて学校の運営に取り組む土台をつくることができました。 ・また、各校とも外部人材を授業に招いたり、取組等のホームページ掲載及び学校だよりの発行等の情報発信を行い、地域に開かれた学校づくりを推進しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から学校運営協議会制度が導入されたため、各校の実情に応じた検討・協議を行う必要があります。 ・協議会を継続していくため、段階的に委員の世代交代を図る必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、学校運営協議会制度を有効に活用し、学校と地域住民等が力を合わせ学校運営に取り組めます。 ・引き続き各学校で、外部人材を授業に招いたり、取組等のホームページへの掲載等情報発信をしていきます。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 30
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿	地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	外部人材の活用	-	学校教育課
事業の概要			
学校外の人材による授業や部活動の支援、大学など外部の専門家からの助言による授業改善などにより、教育の質の向上を図ります。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	教育活動に必要な地域などの資源を活用している学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100.0 (中)100.0 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)100.0 (中)100.0	(小)80.0 (中)100.0			
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・地域をはじめ、様々な分野で活躍されている学校外の方から、タケノコ掘りや田植えの指導、図書館の本の貸し出し支援、ボランティアによる読み聞かせ、キャリア教育、性教育等での講話等の支援を受けました。 ・外部講師を招いた非行防止教室や薬物乱用防止教室、交通安全教室、地元ゆかりのある方や地元企業等による出前授業を開催しました。 ・中学校部活動では、長岡第二中学校剣道部と長岡第三中学校バレーボール部、野球部に、外部講師やボランティアに来てもらい、指導を受けました。 ・大学教授を招いて、「総合的な学習の時間」についての研修を実施したり、校内重点研究に合わせた授業改善等に係る研究に取り組んだり、各校で外部講師を招いた教職員研修を実施しました。 ・その他、教職員が授業実践力向上に係る講座等京都府総合教育センターで開催の教職員向け研修を受講しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの小中学校で、地域の方々の支援による授業を実施したことにより、地域に対する「開かれた学校づくり」の推進につながりました。 ・大学など外部の専門家や、様々な分野で活躍する人材による研修や指導を通じて、児童生徒だけでなく、教職員も学びを深めることができました。 ・コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍以前に比べ、外部講師等による出前授業や指導を十分に実施できない学校がありました。
	課題等	・コロナウイルス感染拡大防止のため、職場体験や出前授業等、実施中止やオンライン授業等への変更を余儀なくされた取組がありました。	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部の専門家等の支援を受け、教職員の専門性を高めていくと共に、教育の質の向上を図ります。また、地域人材を活用することで、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ・コロナ禍のため、実施ができなかったり、オンライン開催での実施を余儀なくされたりする取組がありましたが、対面での実施こそ深い学びに繋がるものであり、今後は感染対策も講じながら、多様な学びの機会を確保していきます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部の専門家等の支援を受け、教職員の専門性を高めていくと共に、教育の質の向上を図ります。また、地域人材を活用することで、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ・コロナ禍のため、実施ができなかったり、オンライン開催での実施を余儀なくされたりする取組がありましたが、対面での実施こそ深い学びに繋がるものであり、今後は感染対策も講じながら、多様な学びの機会を確保していきます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部の専門家等の支援を受け、教職員の専門性を高めていくと共に、教育の質の向上を図ります。また、地域人材を活用することで、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ・コロナ禍のため、実施ができなかったり、オンライン開催での実施を余儀なくされたりする取組がありましたが、対面での実施こそ深い学びに繋がるものであり、今後は感染対策も講じながら、多様な学びの機会を確保していきます。 				

基本目標3

生涯を通じた、多様な学びによる
豊かな人づくり、地域づくり

基本施策(8) 生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進(通番31~36)

基本施策(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用(通番37~42)

基本目標 3

学識経験者の主な意見

<通番 30 「外部人材の活用」>

- どの施策にも関係することだが、地域活動に携わる人の人材確保が大きな課題となっている。長岡京市では、校区ごとに地域コミュニティ協議会などを設立し地域活動に力を入れているが、今後は、地域の核となる人材をどのように育てていくかを考える必要がある。

<通番 32 「中央生涯学習センター事業」>

- コロナの影響もまだあると思うが、今後、うるおい資源と言われる文化財の活用や、公民館、生涯学習センターの活性化について考えることは、大変重要である。

<通番 35 「図書館サービスの推進・充実事業」>

- 市図書館では、子ども向けのイベントも多く、充実した図書館サービスを提供されている。また、各学校では図書館司書を置いて、ブックトークや読み聞かせを実施するなど、読書習慣の定着のため様々な工夫をされていると感じる。
一方で、小学校では本をよく読んでいても、中学校に入ると読まなくなることが課題でもあるため、市の図書館とも連携しながら読書定着のための取り組みを行ってほしい。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 31
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿	社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		公民館市民講座開設事業		1,296,951
	事業の概要			
	市民生活が生涯学習を通じて潤いあるものとなるように、様々な学習ニーズに対応した講座を実施します。また、実際生活に関する学習課題を市民自らが講師となり共に解決していく「市民企画講座」を実施します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	公民館主催講座の参加者数(児童室一般開放を除く)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6,013 (令和元年度)	目標	6,130	6,190	6,250	6,310	6,370
		実績	3,877	5,099			
	内容	<p>・各世代のニーズに応じた講座として、少年教育(少年少女発明クラブ12回)、男女共同参画(男女共同参画講座1回)、高齢者教育(熟年生き生き講座12回)、家庭教育(ぴよぴよクラブ10回、子育てふれあいルーム72回、家庭教育学級1回)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)、また、公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事していただける子育てボランティアを養成する講座9回、子育てボランティア同士の情報共有の場としてサポーターふれあいネット12回を実施しました。令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で5月までは定員数を制限しており、6月以降も含めて感染症拡大防止対策を徹底しながら、講座の開催に努めました。</p> <p>・29年度に施行、30年度から本格的に実施した市民企画講座は、総合計画から抽出したテーマに沿って、市民自らが講師となり51企画、148講座を実施いたしました。3年度に引き続き、個別のチラシはもとより、3ヶ月単位で取りまとめたチラシも作成し、実施時期や内容が一目でわかるよう工夫しました。</p>					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	達成状況	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響は3年度よりは少なく、実績値も増加したものの、熟年生き生き講座の参加者が指標策定時の平成元年度と比較すると52.5%と半分程度になったことの影響が大きく、参加率は目標を下回る結果となりました。</p> <p>・講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取り組み課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%~100%となっております。</p>
	課題等	<p>・平成30年度の本格実施から5年が経過し、徐々に市民企画講座が認知されてきた一方、講座数が増えたことに伴い、サークル活動のために使える部屋が少なくなってしまうといった課題もある。サークル活動と公民館事業が共存するための方法を今後検討していく必要もあります。</p>	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・引き続き、アンケート結果をもとに市民ニーズの把握に努め、講座数の上限など調整する中で、実施していきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 32
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿	社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。		

概 要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	中央生涯学習センター事業		73,879,650	生涯学習課
	事業の概要			
人生100年時代を迎え、生涯学習社会への重要性が高まっています。市民の主体的な学びの場として、また、学習機会や情報を提供する場として、中央生涯学習センターを管理運営します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	48.7 (令和元年度)	目標	30.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	30.1	40.9			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社に委任しています。 今年度も、基本的な感染対策を呼び掛けたくえて、貸室事業を行いました。 指定管理者の自主事業として、バンビオ展示ウィーク、バンビオファミリー人形劇、夏休み親子企画、落語会、各種講座などを行いました。 利用促進のため配膳試食室の改修を行いました。 生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」を全戸配布し、イベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 空調入替工事による貸室停止期間はあったものの、稼働率は概ね回復傾向にあるといえます。空調更新や施設修繕により、快適な利用環境を整えることができました。 指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的に行い、事業への参加を通じ、多くの方に新たな学びの機会を得ていただくことができました。 盆踊りフェスタ、妖怪の世界展、バンビオ謎解き探検ラリーなど集客効果のあるイベントを実施し、多くの方に訪れてもらうことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で生涯学習活動を休止していた人が、学びを再開していただけるよう、施設利用のきっかけとなる取り組みを行う必要があります。 平成17年の開館から18年が経ち、利用者に快適に施設を利用いただくためにも、施設や備品について、必要な範囲で修繕や更新を行っていく必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、魅力的な講座やイベントを実施し、生涯学習、施設利用のきっかけづくりとなる取り組みを行います。 モバイルWi-Fiフィルターの貸し出しなど、利用者のニーズに合った取り組みを行います。 計画的に、施設や備品の修繕、更新を行っていきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 33
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿	社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	社会教育推進事業		958,440	生涯学習課
	事業の概要			
団体の持続的な活動が推進できるように、社会教育関係団体を支援していきます。				

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標	社会教育活動支援団体数(補助金交付団体数)					単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	13(令和元年度)	目標	13	13	13	13	13	
		実績	12	11				
内容	市内の社会教育団体、スポーツ団体、文化団体に対し、収支予算、決算や事業計画、報告に基づき補助金を交付しました。団体からの相談対応、協議、活動に必要な調整を行うなど、男女共同参画、PTAの連携促進、人権、文化、青少年育成、スポーツといった幅広い分野の地域に根差した社会教育活動に対し、活動費以外の面でも支援しました。							

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達 成 状 況 申請のあった社会教育関係団体に対し補助金を交付し、活動費の面で支援することができました。新型コロナの影響で行事を中止、活動を縮小していた団体も多く、再開に向けた相談に応じたり、コロナ前の活動内容の引き継ぎが少ない状況に対し、校区どうしの情報共有、交換の場を設けるなど、活動費以外の面でも再開を支援しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 退職後も働く方が増えたり、一人親世帯、共働き世帯が増えるなか、地域に根差した社会教育活動に対しどのように、多くの方に参加いただくかが課題です。 引き続き、新型コロナの影響により、役割やノウハウの継承が減っている状況に対し、支援が必要となっています。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き活動費の支援を行います。 団体の参加者が増えるよう、広報面で支援したり、必要に応じ、校区間などで情報共有、交換の場を設け、活動費以外の面での支援も行います。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 34
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿	社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		各種団体サークル等活動支援事業		158,400
	事業の概要			
	公民館で活動しているサークルの活動紹介等を通じて、公民館に来館し、活動する市民を増やします。館内の発表会・パネル展示・広報紙に加え、中・高・大学生、壮年等の世代別の広報も展開し、新たな市民利用を呼び込みます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	公民館(社会教育ホール)登録団体件数				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	166 (令和2年8月 末現在)	目標	170	175	180	185	190
		実績	182	190			
	目標指標②	公民館(社会教育ホール)登録団体による利用件数【児童室・焼成炉室除く】				単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
2,869 (令和元年度)	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020	
	実績	1,921	2,678				
内容	<p>・公民館サークル連絡協議会(略称:公サ連)の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示や館内での募集看板の掲示及びオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施しました。</p> <p>また、コロナ禍で中止となっていた公サ連まつりを3年振りに再開し、美術工芸展や芸能発表会活動など活動の成果を発表しました。</p>						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <p>・新型コロナウイルス感染症が収まってきたことで、6月から各部屋の人数制限も緩和され、団体による利用件数も増加してきました。</p>
	課題等	<p>団体登録更新時期(3年毎)まで、退会の手続きをされていない団体も多数見受けられるので、更新時に多数の団体が退会され減少することが見込まれます。</p>

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <p>・会員と意見交換等を通して、見学や体験など機会となるオープンハウスを引き続き実施するほか、普段の活動時でも気軽に見学できるよう、活動日に部屋の入口に「見学歓迎」などの掲示を行い、会員確保につなげていきます。</p>

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 35
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	図書館サービスの推進・充実事業		11,244,738	図書館
	事業の概要			
読書啓発活動を推進するとともに、今まで図書館を利用していない人にも魅力を感じてもらえるアプローチの手法を検討・実施します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	1冊あたりの年間稼働率(回転数)				単位	回
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1.58 (令和元年度)	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		実績	1.72	1.70			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2階児童室の調べものの本について、子どもが探しやすいよう背表紙ラベルに記載の本の分類番号順に並び替えを行いました。また、遠くからでも目的の書架にたどり着けるよう、書架の上に立体式のサインを設置しました。 ・市制50周年記念事業では、「読み継いでいきたい50冊」と題して市民よりおすすめ本を募集した中から選りすぐった50冊のブックリストを作成し、「ブックバトン」および50年を振り返る展示「思ひ出バトン」の展示を行いました。また、大人向けに「長岡時代の細川藤孝～古典を楽しむ～」をテーマに連歌体験のワークショップを取り入れた講演会を実施しました。 ・雑誌スポンサー企業として新たに3事業者が参加し、新たな情報発信の試みとして、選書からレイアウトまで司書と企業と協同で作り上げる企画展示を今年度初めて実施しました。 ・男女共同参画、民生児童委員など市の他部署との連携による展示やウクライナ特集等の時事問題を取り入れた展示を行う等、来館者の裾野を広げるため多様な切り口の図書展示を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用が少ない中学生から働く世代向けの講座を昨年度に引き続き実施した結果、司書による文学講座では11名の参加がありました。書評を通じたコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」「ビブリオトーク」を開催し、延べ16名の参加がありました。また、図書館を主な活動場所とする団体「金のうろこ」による公開講座や、科学の本を実体験と共に届ける「よもう!たのしもう!かがくの本!」による講座では、年齢を問わず楽しめる内容とすることで多世代間での本を通じたコミュニケーションが生まれました。これらの行事により新たな参加者層を発掘し、本との出会いの機会を充実させることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より本が好きな中高生による「知恵の実」の会が発足し、本に関する活動が行われてきましたが、創設時のメンバーの卒業などの事情により、中高生向けの読書啓発活動の見直しが必要になっています。 ・新鮮な情報が得られる書架づくりのため、蔵書を適切に更新することが課題です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2:進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで関わってきた読書啓発活動団体と引き続き良好な関係を築きながら、大学(市内外含む)や高等学校、小中学校などへも積極的に働きかけ、新たな協力・連携体制づくりを行い、小学校高学年から大学生までの利用が少ない層を巻き込んだ読書啓発活動を企画していきます。 ・引き続き、情報の新鮮さ・信用性を精査して図書を収集する一方で、古い本を適切に廃棄することで新鮮な情報が得られる書架・蔵書づくりを進めます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 36
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	人権教育・啓発推進事業		706,497	生涯学習課 (共生社会推進課)
	事業の概要			
全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指し、人権学習会や研修会を行います。				

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標	人権啓発事業への参加者数					単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200	
	6,152 (令和元年度)	実績	4,916	5,496				
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・12月3日(土)に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催し、関係団体の発表、パネル展示、盲目のヴァイオリニスト増田太郎さんの講演会などを行いました。 ・全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品(標語・ポスター・写真)を募集し、4,179人から4,649件の応募がありました。 ・市民団体である人権啓発推進協議会と連携し、様々な人権に関するテーマの講座を4回開催しました。 ・暴力根絶と児童虐待防止を目的とした「パープル&オレンジリボンプロジェクト」をはじめ、男女共同参画講座の開催など、ニーズに即した多角的な事業を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部新型コロナウイルス感染拡大の影響により講座の中止などありましたが、参加者数は5,496人となりました。 ・人権啓発推進協議会をはじめ、各種人権団体と講演会や研修会を通じて、広く市民に人権について学べる機会を提供しました。 ・参加者からのアンケートによると、各種講座やイベント等において8割以上の方が「理解が深まった」「良かった」と回答いただきました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ、同和問題や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の様々な人権問題が存在しています。 ・近年は、ヘイトスピーチのほか、SNSなどのインターネット、LGBT等に関連した人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑、多様化する人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識してもらえよう、テーマや開催方法などを工夫して、啓発に取組みます。 ・市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑、多様化する人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識してもらえよう、テーマや開催方法などを工夫して、啓発に取組みます。 ・市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑、多様化する人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識してもらえよう、テーマや開催方法などを工夫して、啓発に取組みます。 ・市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。 				

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 37
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	長岡京芸術劇場推進事業		77,466,635	文化・スポーツ振興課
	事業の概要			
「長岡京芸術劇場」公演をはじめとした文化・芸術事業を推進します。また、子どもたちが文化・芸術に興味関心を持ち、活躍するまちづくりに取り組みます。また、長岡京記念文化会館を拠点とした質の高い舞台芸術の提供と充実を図るとともに、記念文化会館の安定的な運営を目指し京都府(施設設置者)に対して会館の活用や維持・改修を求めています。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	長岡京芸術劇場の事業数				単位	事業
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	15	24	25	26	27
	21 (令和元年度)	実績	12	18			
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京芸術劇場事業として、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業(5事業)、文化奨励事業補助金助成事業(6事業)、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント(7事業)を企画し、18事業の実施となりました。市主催事業(1事業)は新型コロナウイルス感染症のため、中止を余儀なくされました。 ・長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体2団体による、市内小学校や中学校への出張コンサートや演奏指導などの交流に支援を行いました。 ・長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、記念文化会館で音楽、映画等の17事業を実施しました。また、記念文化会館の老朽化(設備の故障、建物の雨漏り等)に伴い、京都府にホールの修繕計画の策定及び財政的支援を要望しました。令和4年度に舞台音響設備の部分改修、屋上防水の改修工事の内示を受け、令和5年度に実施予定です。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催の制限が緩和されたこともあり、参加団体と調整及び協力を十分に行い、安全に18事業を実施することができました。ただし、来場者が制限できないイベント等について中止を余儀なくされ、目標事業数の達成には至りませんでした。 ・ホールの使用制限が緩和され、芸術劇場付帯事業であるバイオリン体験を除いて、17事業実施することができました。また、開催制限が解除されたこと等を受け、記念文化会館使用率は61.2%、66,582人と前年度(40.9%、35,883人)と比較すると大幅に回復しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続いた影響で、地域の文化芸術活動が停滞しています。 ・事業の中止、縮小が続いたことにより発表機会が減少した結果、文化活動へのモチベーションが低下しています。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	・アフターコロナにおいて、地域の文化芸術活動の再開、復活のためにも、文化芸術団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、事業を活発に実施できるよう検討・工夫及び支援を行っていきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 38
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	文化活動推進・支援事業		2,684,000	文化・スポーツ振興課
	事業の概要			
誰もが文化・芸術活動に触れ、参加してもらう機会を確保するため、文化団体の文化・芸術活動を推進し、活動支援を行います。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	文化活動団体事業における参加者数(出品者、出演者、鑑賞者)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	7,092 (令和元年度)	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100
		実績	3,876	7,854			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市文化協会が主催する事業に補助金を交付し、市民の文化芸術の発表の場であり、鑑賞の場である「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」の実施を支援しました。また染色工芸をテーマとした「文化講座」や「各種市民文化教室」の開催を支援し、初心者を対象にした文化芸術活動へのきっかけづくりを行いました。 ・WITHコロナに対応した「長岡京市文化奨励事業補助金」制度を運用し、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な文化・芸術活動に対し支援を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合 C:目標の一部を達成できなかった	達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会3大事業(「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」)は、感染症対策を徹底したうえで、完全実施することができました。 ・人流制限や施設(会場)の利用制限等コロナ禍の影響で、来場者数は目標値を達成できませんでした。 ・「名月の宴」では、新企画として事前に小学生が作成したランタンを展示したことにより、若い世代(子どもや子育て世代)に来場いただくことができました。 ・長岡京市文化奨励事業補助金の交付件数は、事業が復活したこともあり、前年度より3件増の6件となりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続いた影響で、地域の文化芸術活動が停滞しています。 ・事業の中止、縮小が続いたことにより発表機会が減少した結果、文化活動へのモチベーションが低下しています。 ・加盟団体が休止・解散しており、特に高齢者の文化活動再開が困難になっています。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td>・地域の文化芸術活動の再開、復活を目指して、文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。</td> </tr> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	・地域の文化芸術活動の再開、復活を目指して、文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	・地域の文化芸術活動の再開、復活を目指して、文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。				

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 39
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	総合型地域スポーツクラブ推進事業		34,657,154	文化・スポーツ振興課
	事業の概要			
全小学校区で総合型地域スポーツクラブの設立を図ります。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	総合型地域スポーツクラブの設立数				単位	小学校区
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	8	8	9	9	10
	8 (令和元年度)	実績	8	8			
内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても地域スポーツの振興を図るために、本市のガイドラインに準じた感染対策ガイドラインを作成し、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託した。 ・長岡第九小学校において、開放センターの移設を行い、地域スポーツとしての拠点整備を行った。 ・総合型地域スポーツクラブ未設立地区に対しては、長岡京市総合型地域スポーツクラブ協議会や関係機関等と連携し、設立に向けての働きかけを継続しています。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在8つの校区で設立された総合型地域スポーツクラブを中心に、校区住民のスポーツ実施の機会拡大につながっています。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により事業の制限がありましたが、感染対策を徹底しながら、可能な限り実施しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により、外出する人の減少により地域スポーツの振興につなげることが困難な社会となっており、地域の絆や地域コミュニティの醸成が停滞しています。 ・未設立校区では総合型設立に向けた、組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツが地域の絆や地域コミュニティの醸成・復活につながるよう、関係団体と調整・協議を行い感染対策を両立して、事業が実施できるよう検討・工夫を行っていきます。 ・未設立校区では総合型設立に向けて、引き続き、長岡京市スポーツ協会と連携協力しながら「核となる人や団体」の発掘育成を行い、総合型地域スポーツクラブの意義について啓発や、その必要性について理解を求めていきます。 ・既設立校区の総合型地域スポーツクラブに対しては、地域スポーツ振興の拠点となるクラブハウスの整備に向けて調整を行っていきます。 ・国が進めている「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について慎重に検討していく必要があります。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 40
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		スポーツ交流推進事業		18,961,757
	事業の概要			
	若葉カップ全国小学生バドミントン大会を通じ、競技力向上の機会と広域的な交流を深める機会を創出します。市民が身近な校区で運動・スポーツに親しめるよう、小中学校の体育施設を開放し、運動・スポーツのできる環境の確保に努めます。また、スポーツ少年団の育成やスポーツ団体連合会の活動の支援を図ることで市民のスポーツ実施率を高めます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校開放・夜間照明利用件数(注:工事による利用枠減少(令和4年~6年)を踏まえて目標を設定しています。)				単位	件
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	9,212 (令和元年度)	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800
		実績	5,038	9,563			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 関係者の安心安全を最優先とした感染予防対策を講じながら、多くの運営スタッフ、スポーツボランティアの協力のもと「第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催しました。 コロナ禍において安全に市民が運動・スポーツに親しむ機会を提供するため、ガイドラインを作成し、感染症対策を徹底した上で、「市民スポーツフェスティバル」及び3年ぶりに「市民大運動会」を開催しました。 小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行い、市民がスポーツを行う環境を提供しました。 地域スポーツの振興を図るため、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」では、無観客など平常とは異なる大会での開催となったため、デジタルプロモーション事業として、PR動画の作成、フォトライブラリー、試合のライブ配信等により、選手への思い出づくりやモチベーションの向上、本大会の魅力の世界に向け発信するなど初めてとなる取り組みを実施しました。 工事に伴い利用できない校区・期間がありましたが、学校開放・夜間照明利用件数は目標を上回る結果となりました。 半日開催や看護師の配置など感染対策を徹底して、3年ぶりに市民大運動会を開催し、市民がスポーツに親しむ機会となりました。 「市民スポーツフェスティバル」を各校で開催し、コロナ禍でもスポーツができる場を提供しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベントについて、市民のニーズに合わせて、どのように開催・復活していくかが課題となっています。 「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は、長年、全国のクラブチームが参加される大会として、本市で開催されていますが、より一層、市民や全国に認知されるように取り組む必要があります。 学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」の参加者が固定化しており、新たな利用者・参加者の増加が進んでいません。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 地域の絆、地域コミュニティの醸成、復興につなげるため、「新しい生活様式」をスポーツに取り入れ、実施可能な市民スポーツの推進を図ります。 学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」等の参加者の固定化改善のために、住民ニーズにあわせたプログラムを考案するなど、少しでも多くの市民がスポーツに触れることができる環境が作れるよう検討します。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 41
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	スポーツ施設環境の整備		212,041,820	文化・スポーツ振興課
	事業の概要			
スポーツ活動の拠点である西山公園体育館やスポーツセンターの適正な維持管理に努めながら、多くの市民がライフステージに応じたスポーツを楽しむことができるよう、市民スポーツ活動の充実を図ります。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	体育館等施設利用者数(西山公園体育館・スポーツセンター)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	268,232 (令和元年度)	目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000
		実績	153,657	196,762			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進むなか、設備・備品の修繕や更新を適宜実施し、施設の維持管理に努めました。 新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの見直しを適宜行い、利用者が安全・安心に施設を利用できるよう努めました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、利用者数が目標値を大きく下回っています。 西山公園体育館は、高架水槽の修繕を行いました。 スポーツセンターは、テニスコートの修繕を実施しました。 西山公園体育館、スポーツセンターの管理運営等について、指定管理者のスポーツ協会等と協議検討を行いました。 スポーツセンターの再整備について、関係部署と連携しながら、体育館機能の移転や現行施設の屋外機能の拡充など協議検討を行いました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館及びスポーツセンターについては、老朽化する施設設備において、安全を最優先に、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行う必要があります。 スポーツセンターについては、再整備を進めていきます。 	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館は、個別施設計画に基づく対応として最優先項目である館内のLED化をはじめ、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、関連部局とも連携協力して、体育館機能の移転等施設の再整備を行っていきます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館は、個別施設計画に基づく対応として最優先項目である館内のLED化をはじめ、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、関連部局とも連携協力して、体育館機能の移転等施設の再整備を行っていきます。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館は、個別施設計画に基づく対応として最優先項目である館内のLED化をはじめ、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、関連部局とも連携協力して、体育館機能の移転等施設の再整備を行っていきます。 				

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 42
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		総合的な文化財保存活用の推進		4,247,506
	事業の概要			
	文化財保存活用地域計画の策定と新庁舎での歴史資料の展示公開を進めます。計画の策定と合わせて、恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存に取り組みます。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工
	実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成	長岡京市文化財保存活用地域計画の作成				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市文化財保存活用推進会議、文化財保護審議会の意見聴取及びパブリックコメントを経て、長岡京市文化財保存活用地域計画を作成しました。 ・地域計画では、新庁舎歴史資料展示室の整備や乙訓古墳群の保存整備などを重点事業として整理しました。 ・地域計画の文化庁の認定を記念したシンポジウムを開催し、基調講演会やパネルディスカッションにより地域計画の重要性について浸透を図りました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	課題等	・文化財の保存・活用に関する総合的な計画である長岡京市文化財保存活用地域計画を作成し、令和4年12月に文化庁長官の認定を受けました。
		・文化財保存活用地域計画に掲げる重点事業をはじめとした具体的な取組みを推進する体制整備や財源確保が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	文化財の総合的な計画である長岡京市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の調査・研究事業を継続して進めるとともに、新庁舎歴史資料展示室の整備や恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存などの具体的な取組を着実に進めていきます。

基本目標4

子どもを中心につながる地域の
学びの場の推進

基本施策(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実 (通番43~47)

基本施策(11) 子どもを健全に育む場の充実 (通番48~50)

基本目標 4

学識経験者の主な意見

<通番 43 「地域見守り活動の推進」>

- 「地域見守り活動」などの地域活動が充実していることは、健全育成の点においてもすばらしいことである。今後も継続して取り組んでほしいが、関わっていただく方の高齢化が進み、次世代をどのように育成していくかが課題である。

<通番 46 「教育に関する保護者相談体制の充実」>

- 不登校の子どもの支援については、今後、教育支援センターで不登校研究部門を新たに立ち上げ、学校の中に別室を設け、中学校では「こころの健康アプリ」の導入を検討するなど、積極的に取り組んでいると感じた。

今、全国的にも学校復帰を前提とせず、様々な子どもたちの居場所を提供するという方向に転換しているため、教育現場としても難しい課題だと思うが、今後の取り組みに期待する。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 43
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	地域見守り活動の推進		1,775,912	生涯学習課
	事業の概要			
子どもの健やかな成長と発達を目指す地域の育成組織が、相互に連携を深め、子どもを守り育てる活動を推進することで、明るく住みよいまちづくりを進めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	地域の育成組織の事業における来場者・参加者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1,986 (令和元年度)	目標	1,120	1,830	1,990	2,020	2,040
		実績	356	1,933			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとにパトロール等を実施し、地域の見守りや交流を行いました。 ・バンビオのギャラリーにて、安全・安心をテーマにした市内の小学生245人の作品を展示し、「安全・安心長岡京市子ども絵画展」を実施しました。3年ぶりに表彰式を会場で実施し、保護者を含めて135名の来場がありました。 ・「たそがれコンサート」を3年ぶりに、青少年の活動の場の提供や少年補導委員会の啓発活動などを目的に実施しました。 ・中学生とトークでは、長岡第二中学校の生徒と少年補導委員が向日町署の講演を聞き、SNSによる犯罪など中学生の身近にある犯罪について話し合いを行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心長岡京市子ども絵画展」を開催しました。地域の安全安心をテーマとした作品作りを通して、子どもが自らの地域に目を向け、防犯意識を高めることに繋がりました。 ・コロナ禍において、可能な範囲で各小学校区ごとに地域団体が連携して、夜間パトロールの実施やあいさつ運動など地域ぐるみで子どもたちを見守る取組を実施しました。 ・たそがれコンサートでは1500名の参加があり、多くの方に少年補導委員の活動や市内の中高生の吹奏楽部の活動を披露することができました。 ・中学生とトークでは、中学生が少年犯罪について考える機会となり、少年補導委員も中学生の生の声に触れることができ大変有意義な時間となりました。
	課題等	・地域の子どもたちを見守る目を増やすため、多くの方に啓発活動やパトロールに参加いただいたり、少年補導委員を担っていただく必要がありますが、退職後も働く方が増えたり、共働き世帯が増えるなか、どのように負担を減らし、多くの方に参加いただくかが課題です。	

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の子どもを地域で育てること、見守ること」の重要性を理解いただくため、少年補導委員の目的や役割の周知に努めます。 ・社会情勢に合わせた活動を行っていただくため、必要に応じ取り組み内容の見直しを行います。 ・少年補導委員に対し研修を実施し、目的を共有、事業内容への理解を図ります。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 44
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	地域で支える中学校教育支援事業		2,962,548	生涯学習課
	事業の概要			
地域と学校が連携し、地域全体で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動」を推進します。各中学校に地域コーディネーターを配置し、地域住民がボランティアとして、授業や部活動の支援のほか、放課後の学習支援、図書室の開室支援、学習支援等を実施します。研修や交流を通し、コーディネーターの資質向上に努め、学校と一体となって持続可能な体制作りを進めます。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	地域で支える中学校教育支援事業年間活動延べ日数(4校合計)				単位	日
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	1,180	1,400	1,400	1,400	1,400
	1204 (令和元年度)	実績	1,047	1,097			
内 容							
各中学校のニーズに応じて、事業を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・長岡中学校では、学習支援(英検、数検対策)、部活動支援、図書ボランティア活動などを行いました。 ・長岡第二中学校では、学習支援、学力支援、部活動支援などを行いました。 ・長岡第三中学校では、学習支援(補習、テスト対策など)、部活動支援、行事支援、図書ボランティア活動などを行いました。 ・長岡第四中学校では、学習支援、授業補助、部活動支援などを行いました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)
	達成状況	地域ボランティアが能力や資格を生かし、中学校のニーズに応じて、中学校教育を支援していただき、教科担任や部活動顧問が支援を必要としている部分や、授業以外の補習、新たな学習にチャレンジする取り組みなど教員以外の支援や人手を必要とするものなどにおいて、中学校、地域コーディネーター、地域ボランティアが連携し、支援事業を行うことができました。
課題等		中学校が支援を求める人材や内容と、地域の方が支援したい内容や思いとのマッチングが必要な事業であり、多くの方にボランティア登録いただき、支援いただける機会を増やすとともに、中学校の方針やルールを説明し、ボランティアの方に充分理解いただく必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、授業補助、部活動支援などの他に、地域とともに行う取り組みについても、条件に合えば広く制度が活用できることを周知します。 ・中学校支援ボランティアの登録について、様々な広報手段で周知するとともに、中学校支援の方針やルールについても説明を行います。 ・コーディネーター会議を開催し、各校の支援内容や工夫などを共有します。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 45
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿		家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	家庭教育に関する学びの機会の充実		-	生涯学習課
	事業の概要			
子育ての責務や親としての役割、子どもとのかかわり方など、保護者が子育てに関して、学ぶ機会を提供します。				

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標	家庭教育に関する講座等の情報提供					単位	-
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	情報提供の実施	目標	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	
		実績	情報提供の実施	情報提供の実施				
内 容	主にPTA、学校に対し、京都府や乙訓教育局などが主体となって実施される家庭教育に関する講座、催し(親学びフォーラム、京都府PTA指導者研修会など)などのご案内、周知を行いました。							

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況 京都府、乙訓教育局などが主体となって実施される講座や催しについては、参加対象となるPTA、学校に対しご案内し、一定数の方にご参加いただくことができました。「親も子ども幸せになれる子育てとは」「子どもも親も自己肯定感をほぐす子育て」「楽しく学ぶコミュニケーションの極意」などについて保護者に学んでいただくことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 一人親世帯、共働き世帯の増加により、平日の昼間の時間帯に研修に参加することへの負担感が増えています。 市内の講座等の情報について、保護者を始めとした家庭教育の関係者に広く提供する必要があります。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> オンラインの研修などについても周知案内を行います。 家庭教育に限らず、市内で実施される社会教育、生涯学習の講座やイベントの情報をより手取りやすいかたちで提供する仕組みを検討します。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 46
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要

P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	教育に関する保護者相談体制の充実	2,300,778	教育支援センター
事業の概要			
いじめ、不登校などの教育に関する相談のほか、子どもの発達や子育てに関する相談について、専門的な指導やアドバイスが受けられるよう、相談体制の充実を図ります。また、相談窓口の周知を行います。			

令和4年度の取組

D (取組)	目標指標	教育相談の実施					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	
	教育相談の実施	実績	教育相談の実施	教育相談の実施				
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による保護者の心理相談や児童生徒へのプレイセラピー(遊戯療法)を実施し、心理面でのサポートを行いました。 ・相談の難しい保護者に対しては、電話相談を取り入れ、継続的な繋がりを保って支援しました。 ・学級担任、管理職、学年主任、養護教諭や通級指導教室担当者など、児童生徒をとりまく学校教職員と連携して相談活動を行いました。 ・発達検査(WISC-IV・新版K式発達検査2020・コミュニケーション発達の検査(LCSA))を行いました。 ・昨年度に引き続き長岡京市公式LINEからの教育相談の受付を行いました。 ・小学校1年生の児童・保護者向けに「相談カード」を配布し、困ったときに相談できる場所があることを周知しました。 ・教育相談員の資質向上のために、大学教授等によるスーパーバイズ(SV)で事例研究を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価

令和4年度の達成状況

C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の延べ件数は1,755件、電話相談件数は544件でした。 ・就学相談の延べ件数は1,030件、電話相談件数は446件でした。 ・発達検査を113件行い、検査結果などから認知の特性を把握し、アセスメントの報告書を作成した。また、保護者、学級担任、各校の特別支援教育コーディネーターと面談を実施し、今後の支援について関係者で方針を共有し進めることができました。 ・教育相談員が大学教授等によるスーパーバイズで事例研究を行うことで、保護者の心の揺れや寄り添い方について、的確な助言を受けることができ、実践につながる深い学びを得られました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数の増加で、教育相談員とプレイセラピスト、学校などの連携機関とケースの情報共有をする時間が十分にとれていません。 ・相談内容は、複雑な問題が絡み合っているケースが増えているため、その後の経過観察やフォローアップの時間を十分にとる必要があります。 		

次年度以降の対応

A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	・次年度は教育相談員が記録や連携機関との情報共有の時間を十分に確保できるように、1日に対応する相談件数の上限を定めます。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 47
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	児童館子どもの居場所づくり事業(子育てサロン)	7,669,578	北開田児童館
事業の概要			
子育て世代の不安感、孤独感を解消するため、子育てサロンなど子育て世代を支援する事業を継続的に実施し、来館者同士の交流を推進します。			

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標①	児童館利用者の満足度(乳幼児親子)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	78 (令和元年度)	目標	80	80	80	80	80
		実績	92.0	88.0			
	目標指標②	総来館者数(乳幼児親子)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4,744 (令和元年度)	目標	200	300	400	600	800
		実績	485	1,360			
	内容	乳幼児親子の交流の場としてキッズルームを利用制限を設けながら開設しました。 子育てサロンは講師と協議し計22回開催しました。 子育てサロンを開催することで児童館の認知度も上がり、乳幼児親子の来館者数は令和3年度より875人増の1360人となりました。					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成 又は上回って 達成できた (目標の 100%以上)	達成状況 乳幼児親子は昨年度より875人増の1360人となりました。 子育てサロンを開催したことにより、児童館の認知が広がり来館者増に繋がりました。
	課題等	今後についても、乳幼児親子の交流の場として、児童館の認知を広げていく必要があります。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の分類が5類となるため、キッズルームの制限を解除し、さらに満足度を高めていく必要があります。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 48
基本施策	(11)	子どもを健全に育む場の充実	
実現したい学びの姿		子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	放課後児童クラブ育成事業		389,798,748	生涯学習課
	事業の概要			
放課後の児童を対象に小学校敷地内で家庭に代わる生活の場を確保し、児童の健全な育成を図るとともに、保育施設の拡充などのサービス内容の充実を図り、保護者の仕事と子育ての両立を支援します。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	狭隘化・老朽化した施設の整備				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	—	長岡第九小整備	—	長岡第四小整備	—
		実績	—	九小整備完了			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・四小、九小の新施設の建築を開始し、九小については令和5年1月から供用開始しました。 ・R5から民間委託を開始する四小について、8月にプロポーザルを実施し、受託業者を決定しました。また、1～3月にかけて引継ぎ保育を実施し、4月から円滑に委託が開始されるよう支援しました。 ・新型コロナウイルス感染症への対応策として、必要な消毒液等の消耗品や備品の確保、設備の更新を行いました。 ・保育環境の維持向上のため、小学校等と連携し、保育スペースを確保しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和4年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九小について、令和5年1月に移転し、新施設で2クラス制の保育を開始しました。また、概ね1.65㎡/人の基準を満たす保育環境を整えることが出来ました。四小についても計画通り建築が進んでいます。 ・四小民間委託について、7月～2月に4回の保護者会説明会を開催し、また1月から受託業者が引継ぎ保育に入ること、保護者の不安を取り除いた上で4月の委託開始を迎えることが出来ました。 ・消毒液を各クラブに配布するとともに、八小Aの空調機器を更新しました。換気しながら冷暖房を効かせられるようになり、安心安全な保育環境を整えられました。 ・長法寺小について、令和5年度の入会申請受付の結果、現施設の定員を超過する91人の入会申請があったことから、PTA会議室を新たに保育室として借用し、必要な保育スペースを確保しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・入会児童数の増加に伴い、これまで以上に児童1人あたりの専用区画を確保することが困難です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I: 計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四小について、工事完了後の速やかな移転作業と追加で必要な備品を手配します。 ・学校の協力のもと、教室や会議室、体育館等の様々な資源を活用しながら、保育スペースの確保を行います。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 49
基本施策	(11)	子どもを健全に育む場の充実	
実現したい学びの姿	子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	すくすく教室推進事業		9,574,677	生涯学習課
	事業の概要			
学校や地域、家庭が一体となって、子どもの安全・安心な居場所を確保し、特別教室や体育館等の学校施設において、地域の活力を利用して、放課後や週末などの子どもの活動拠点を創出し、学習やスポーツ、文化活動などの取組を推進します。また、放課後児童クラブ育成事業との連携を図ります。				

令和4年度の取組							
D (取組)	目標指標	すくすく教室における1教室当たりの参加児童数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	21 (令和元年度)	目標	21	21	22	22	23
		実績	26	16			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとにコーディネーターを中心とした運営組織を作り、事業を運営しています。 ・令和4年度は、各校区とも少しずつ活動を増やし、のべ開催日数298日(前年度32日)、プログラム数590(前年度36)、参加児童数9,528人(前年度924人)となり、2年間のコロナによる活動停止、縮小期間を経て、本格的な活動再開の年となりました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況 ・使用できる教室の広さや、時間、また児童を教え見守る地域ボランティアの人数の都合により、教室や日程を分けて、また学年を区切って実施することも多くなりましたが、できる範囲、体制で取り組まれ、多くの児童に参加してもらうことができました。 ・コロナ禍に入学した児童にも新たにすくすく教室に参加してもらうことができ、様々な学習や体験をしてもらうことができました。
	課題等	・新型コロナの影響により2年間、活動を停止、縮小していた間に、地域ボランティアを引退された方も多く、また、共働きの増加や定年延長などの影響により放課後にボランティアをできる方が減っており、人材確保が課題となっています。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材の力を活用した運営が継続できるよう、校区運営委員会の活動を支援します。 ・「京のまなび教室」や「生涯学習人材登録ボランティア」等の外部講師、ボランティア講師の情報その他、様々な校区で教えたい方の情報を校区間で共有し、教室実施を支援します。 ・放課後子ども総合プラン(放課後児童クラブとすくすく教室の一体型)を推進するため、放課後児童クラブからの参加を促すように活動の充実に努めます。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 50
基本施策	(11)	子どもを健全に育む場の充実	
実現したい学びの姿		子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。	

概 要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	児童館子どもの居場所づくり事業(子どもの遊び場等)		7,669,578	北開田児童館
	事業の概要			
児童館が子どもたちにとって快適な居場所となるよう、児童館事業の充実を図るとともに利用ニーズに沿った運営を行います。				

令和4年度の取組								
D (取組)	目標指標①	児童館利用者の満足度(乳幼児親子以外)					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	78 (令和元年度)	目標	80	80	80	80	80	
		実績	74※	90.0				
	目標指標②	総来館者数(乳幼児親子以外)					単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	10,111 (令和元年度)	目標	1,800	2,700	3,600	5,400	7,200	
		実績	1,650	3,476				
	内 容	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、利用制限を行いながら開館しました。児童館のくらぶ活動は5月からの開催となりました。子ども達の協調性などを養うことができました。事業については、小学生デイキャンプ教室、手作り教室4回、体験教室3回を実施し、コロナ禍前と同程度の開催数を行うことができました。</p> <p>※令和3年度のくらぶ活動の満足度調査は、1月20日以降のくらぶ活動が行えなかったため、電子メールで保護者宛てに満足度調査を行いました。多くが無回答となったため満足度が低下しました。</p>						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 満足度、総来館者数ともに目標値を上回る結果となりました。特に、満足度については、コロナ禍ではあったものの、コロナ禍前と同程度の開催数を行うことができ、参加者の満足度も高いものとなりました。
	課題等	児童館では子どもの他学年・他校との交流があるため、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら館の運営、事業の開催をしていくことが必要となりました。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I: 計画通りに進めることが適当	令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の分類が5類となるため、コロナ禍前に行っていた事業と、コロナ禍において満足度が高かった事業を織り交ぜながら事業を運営していくことが必要です。

資 料(評価指標)

※「評価指標」は、施策の参考となる統計数値です。

1:これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいたと考えている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	84.8	80.9	76.2	中止	77.7	73.4
中3	割合	79.0	79.4	72.3	中止	85.8	78.7

2:学校の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	74.6	85.5	75.4	中止	79.2	77.4
中3	割合	64.8	81.2	73.7	中止	81.1	78.2

3:勉強することが好きな子どもの割合（国語や算数・数学の勉強が「好き」な子どもの割合）（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6 国語	割合	57.2	項目なし	59.6	中止	52.7	52.5
小6 算数	割合	68.8	66.2	68.9	中止	69.7	56.3
中3 国語	割合	59.9	項目なし	58.0	中止	60.3	57.0
中3 数学	割合	55.2	55.3	54.9	中止	65.5	57.2

4:正答率の割合（4分割）（全国学力・学習状況調査）

(単位:%)	教科	4分割	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	国語・国語A	A	28.5	30.7	33.8	中止	31.8	35.3
		B	34.8	34.4	36.7		31.1	27.6
		C	34.4	28.2	23.0		33.1	30.1
		D	2.0	6.6	6.6		3.9	7.2
	国語B	A	20.4	17.5	/	中止	/	/
		B	38.7	41.1				
		C	33.8	28.7				
		D	7.0	12.6				
	算数・算数A	A	50.1	31.7	36.7	中止	42.7	24.7
		B	28.6	34.0	28.9		24.2	38.6
		C	20.0	29.0	30.8		28.9	30.3
		D	1.5	5.2	3.6		4.2	6.4
	算数B	A	19.3	26.8	/	中止	/	/
		B	38.6	26.8				
		C	32.9	32.6				
		D	9.0	13.8				
	理科	A	/	22.5	/	中止	/	36.2
		B		37.4				28.5
		C		35.7				28.6
		D		4.5				6.5
中学校	国語・国語A	A	35.9	28.0	41.2	中止	20.3	37.1
		B	34.6	38.9	20.2		44.6	31.9
		C	26.8	30.5	31.7		30.8	28.7
		D	2.4	2.3	7.0		4.3	2.1
	国語B	A	54.1	20.6	/	中止	/	/
		B	18.5	40.5				
		C	21.0	33.6				
		D	6.4	5.2				
	数学・数学A	A	38.9	39.7	38.5	中止	28.4	25.4
		B	30.8	27.6	27.2		35.1	36.1
		C	23.4	28.2	25.6		28.8	28.8
		D	6.7	3.4	8.7		7.6	9.8
	数学B	A	18.7	21.4	/	中止	/	/
		B	42.7	39.0				
		C	31.1	25.7				
		D	7.4	14.3				
	理科	A	/	20.7	/	中止	/	13.7
		B		39.3				39.9
		C		36.0				37.5
		D		3.3				8.6
英語	A	/	/	16.8	中止	/	/	
	B			48.9				
	C			30.4				
	D			3.8				

- A:全国平均正答数以上のうち、上位(平均正答数と満点の間以上)
 B:全国平均正答数以上のうち、下位(平均正答数と満点の間以下)
 C:全国平均正答数以下のうち、上位(平均正答数の1/2以上平均回答数以下)
 D:全国平均正答数以下のうち、下位(平均正答数の1/2以下)

5:保幼小関連の研修会の参加人数

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
第1回	66	61	79	中止	64	65
第2回	61	64	75		中止	40
第3回	58	76	72		中止	36
第4回						40
合計	185	201	226		64	181

※保幼小連携会議全体会(研修会)

※教育支援センター又は学校教育課主催

6:保幼小連絡会の開催回数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
一学期	各校1回	各校1回	各校1回	中止	中止	各校1回
三学期	各校1回	各校1回	各校1回	各校1回	各校1回	各校1回
年間合計	各校2回	各校2回	各校2回	各校1回	各校1回	各校2回

※「長岡京市保幼小連携会議全体会」とは別の取組で、各小学校とそれぞれ対象の施設間で連絡や交流等を行うものを、「保幼小連絡会」と呼ぶ。

※「保幼小連絡会」は、例年、一学期と三学期にそれぞれ1回ずつ、年間計2回実施。

※R2・R3については、コロナ禍のため一学期分は中止。

7:人が困っているときに、進んで助けたいと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	86.1	項目なし	87.1	中止	86.3	87.9
中3	割合	82.5	項目なし	86.8	中止	91.4	84.1

8:人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小4	割合	96.2	96.6	93.9	中止	93.9	項目なし
中1	割合	97.1	96.3	98.0	中止	96.3	項目なし
中2	割合	97.5	95.5	96.1	中止	94.5	項目なし

9:自分には良いところがあると思う児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	82.3	87.2	83.7	中止	80.8	81.7
中3	割合	76.0	83.3	73.7	中止	79.4	77.7

10:地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙））

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	46.6	56.1	53.2	中止	50.7	46.7
中3	割合	30.0	36.2	37.8	中止	45.9	38.0

11:朝食を毎日食べている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	95.9	97.0	96.5	中止	96.6	95.0
中3	割合	95.8	92.6	94.5	中止	95.0	93.9

12:体力・運動能力の総合評価A～Eの児童・生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校(5年男子)	A			10.3	中止	9.3	4.5
	B			28.1	中止	21.9	22.3
	C			35.3	中止	32.4	34.6
	D			16.8	中止	23.1	24.5
	E			9.5	中止	13.4	14.1
小学校(5年女子)	A			9.4	中止	12.4	8.5
	B			27.5	中止	19.9	21.9
	C			37.2	中止	36.1	38.5
	D			20.2	中止	25.7	22.4
	E			5.7	中止	5.8	8.7
中学校(2年男子)	A			7.6	中止	1.8	6.3
	B			23.7	中止	19.6	27.1
	C			38.6	中止	42.9	40.5
	D			23.7	中止	26.8	18.5
	E			6.5	中止	8.9	7.7
中学校(2年女子)	A			39.2	中止	19.4	30.9
	B			31.0	中止	33.3	30.6
	C			22.6	中止	29.6	24.0
	D			5.6	中止	10.2	11.0
	E			1.6	中止	7.4	3.5

新体力テスト(8種目)の合計得点により、次の区分で総合評価を判定。

【小学校5年生】A=65点以上、B=58~64点、C=50~57点、D=42~49点、E=41点以下

【中学校2年生】A=57点以上、B=47~56点、C=37~46点、D=27~36点、E=26点以下

13:通級指導教室の設置校数

(単位:校)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校		5	7	10	10	10	10
中学校		1	1	1	1	2	2

14:小中学校における不登校出現率

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校		0.48	0.39	0.45	0.59	0.92	1.42
中学校		3.11	3.39	2.89	3.14	4.20	5.17

15:学習機会や学習状況の把握できている数/不登校児童生徒数(不登校児童生徒報告書)

(単位:人)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	学習機会や学習状況の把握できている数	全数					
	不登校児童数	22	18	21	27	42	65
中学校	学習機会や学習状況の把握できている数	全数					
	不登校生徒数	64	70	60	67	90	110

16:いじめアンケートにおけるいじめの解消及び解消中の数/いじめ件数

(単位:件)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	解消及び解消中の数	1,194	1,485	1,330	1,085	1,291	1,301
	いじめ件数	1,290	1,577	1,461	1,127	1,341	1,328
中学校	解消及び解消中の数	98	103	71	50	96	111
	いじめ件数	124	132	121	75	108	125

17:学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	86.7	-	84.7	実施なし	81.3	83.2
中3	割合	82.5	-	81.3	実施なし	86.0	83.9

18:「将来の夢や目標を持っている」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	86.3	87.7	81.6	中止	79.6	79.4
中3	割合	71.0	75.9	69.3	中止	69.3	61.6

19: 「外国語活動の勉強は好きだった」の回答率（京都府学力診断テスト）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
		77.2	73.4	74.0	中止	66.8	項目なし

※R3より質問項目が、「外国語(英語)の勉強は好きだった」に変更

20: 英検3級以上の取得率

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
	"相当"も含む(※1)	-	64.6	43.5	-	55.3	51.9
	英検のみ(※2)	29.8	21.6	33.5	26.8	25.5	17.6

※H29年度より、中学校3年生対象の英検受検料の公費負担を開始。

※1: 英検3級"相当"である、CEFR A1(セファール)の結果も含めたもの。

CEFRの結果は文科省による「公立中学校における英語教育実施状況調査」の結果から把握。R2年度は未実施。

※2: 英検3級以上の数値。

21: 授業などでもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	項目なし	項目なし	87.8	中止	項目なし	項目なし
中3	割合	項目なし	項目なし	82.0	中止	項目なし	項目なし

22:日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている学校の割合（全国学力・学習状況調査（学校質問紙））

（単位：%）		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	割合	60	90	90	中止	100	100
中学校	割合	75	100	100	中止	100	100

23:老朽化等に課題のある学校の建替え 2校の進捗状況

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
長岡第四小学校			整備基本構想	基本設計	実施設計	校舎工事
長岡第三小学校			整備基本構想	庁内検討	配置検討	埋文調査（試掘） 耐力度調査

24:学校施設の空調整備・維持保全率

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
特別教室の設置率（単位：%）	60.5	61.0	63.8	63.8	67.0	78.0
普通教室の更新数（教室数）	0	0	0	0	1	0
管理諸室（職員室・保健室等）の更新数（教室数）	1	1	0	4	1	2

25:1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合

（単位：%）	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		23.2	17.2	15.3	14.5	13.4

※H30より出退勤管理開始

26:研修の受講者評価（満足と回答した比率）

（単位：%）	H29	H30	R1	R2	R3	R4
			86.7	90.0	95.7	97.2

27:教育活動に必要な地域などの資源を活用している学校の割合（全国学力・学習状況調査（学校質問紙））

（単位：%）		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	割合	100	100	90	中止	100	80
中学校	割合	100	100	100	中止	100	100

28:市民企画講座等 講座参加者数

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	6,304	7,718	6,013	4,032	3,877	5,099

29:市民企画講座等 企画数・講座数

(単位:件)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	185	240	232	223	237	279

30:市民企画講座 企画者向けアンケートの5段階指数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指数(5段階)	5.0	4.7	4.6	4.8	4.6	4.8

31:主な社会教育施設等の利用者数

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
利用者数	407,457	412,354	381,211	157,366	191,589	271,575

※利用者数は、中央生涯学習センター・社会教育ホール・市民ホール・多世代交流ふれあいセンター・産業文化会館の利用者数の合計。

32:中央公民館 施設稼働率

(単位:%)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
社会教育ホール	56.5	55.9	53.6	38.9	42.2	53.6
市民ホール	49.0	43.6	41.3	26.2	39.5	39.5

33:中央生涯学習センター 貸室利用率

(単位:%)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	50.5	51.7	48.7	26.8	30.1	40.9

34:社会教育支援団体数(補助金交付団体数)

(単位:団体)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	14	13	13	13	12	11

35:公民館登録サークルの市民参加人数

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	4,056	4,140	4,375	3,743	4,069	4,193

36:一般書貸出冊数

(単位:冊)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	218,451	217,992	207,460	188,580	212,060	201,625

37・児童書貸出冊数

(単位:冊)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	187,214	183,920	180,178	174,885	221,955	202,576

38:市民一人当たりの貸出冊数

(単位:冊)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	5.3	5.2	5.0	4.8	5.6	5.2

※貸出冊数は一人5冊まで

39:「読書が好き」な子どもの割合（全国学力・学習状況調査）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	76.3	-	77.8	中止	-	68.9
中3	割合	58.2	-	58.4	中止	-	62.8

40:人権啓発事業への参加者数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
人権作品(単位:点)	6,520	6,174	4,945	5,066	4,945	4,649
市民集会(単位:人)	217	267	230	790	77	147

※R2の市民集会はオンライン視聴者数

※R3の市民集会は展示会形式で実施

41:文化まつり等文化事業における参加者数（出品者・出演者・鑑賞者）

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数	9,931	11,263	8,499	2,380	4,376	9,827

42:長岡京芸術劇場事業数・来場者数

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
事業数(単位:件)	6	5	5	5	5	5
来場者数(単位:人)	4083	3419	3575	749	1796	2,938

43:長岡京記念文化会館 使用率

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
使用率(単位:%)	62.0	65.7	54.4	23.3	40.9	61.2

44:市民スポーツ実施率

(単位:%)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
週1回以上運動、スポーツをする人の割合	-	43.9	-	-	-	-

※スポーツに関する市民意識調査を5年ごとに実施、平成25年度 42.9%

45:西山体育館 稼働率

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
開館日数(単位:日)	308	299	307	255	246	306
大体育室(単位:%)	89.0	85.6	78.8	78.8	88.2	87.9
小体育室(単位:%)	95.4	95.2	91.3	88.8	89.1	92.7
武道場(単位:%)	76.8	78.6	74.2	68.5	73.8	80.9
研修室(単位:%)	34.9	31.5	27.7	23.4	38.0	38.8
談話室(単位:%)	-	-	13.3	5.7	22.1	21.7

※平成28年度は、屋根・空調設備等の大規模工事を実施

※平成29年度は、トイレ・競技フロアの大規模工事を実施

※談話室は令和元年10月から使用開始

46:スポーツセンター 稼働率

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
開館日数(単位:日)	348	343	348	294	280	348
体育館(単位:%)	89.6	85.1	85.1	76.2	82.6	82.0
グラウンド(単位:%)	62.9	61.6	59.6	68.0	67.7	73.9
テニスコート(単位:%)	74.6	71.2	72.0	68.7	68.2	73.6

47:指定・登録文化財の件数

(単位:件)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
国指定文化財	7	7	7	7	7	7
国登録文化財	24	24	24	24	24	24
府指定文化財	12	12	12	13	13	13
府登録文化財	2	2	2	2	2	2
府暫定登録文化財	70	71	73	72	73	74
市指定文化財	41	41	41	41	41	41

※府暫定登録文化財は平成29年4月から制度開始

48:埋蔵文化財調査センターの啓発事業参加者数

(単位:人)	H29	H30	R1	R2	R3	R4
啓発事業参加者数	2,848	3,882	2,453	2,772	923	3,014

49:地域の育成組織の事業における来場者・参加者数

(単位:人)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
来場者・参加者数		1,735	1,838	1,986	340	356	1,933

50:「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問に、肯定的な回答をする児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
小6	割合	65.5	64.7	66.0	中止	56.0	54.3
中3	割合	33.7	34.4	42.3	中止	41.9	35.2

51:子育てに「非常に不安や負担を感じる」と回答した割合（子ども子育て支援事業計画アンケート）

(単位:%)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
回答割合		-	45	-	-	-	-

(計画策定時のみアンケートを実施)

52:児童館利用者（乳幼児親子）の来館者数と満足度

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
来館者数(単位:人)	5,774	4,795	4,744	182	485	1,360
満足度(単位:%)	84	82	78	88	92	88

53:放課後児童クラブの施設整備箇所

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
整備箇所	長五小 長六小 長十小	長三小				長九小

54:すくすく教室の1教室あたりの参加者数

(単位:人)		H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数 (年間延人数/活動(教室)数)		23.9	22.8	21.3	-	26	16

※R2は新型コロナ感染予防のため教室開催無し

55:児童館利用者（児童）の来館者数と満足度

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
来館者数(単位:人)	12,243	12,251	10,111	1,645	1,650	3,476
満足度(単位:%)	82	80	78	82	74	90

【協議事項】

- ・ 令和5年度12月教育費補正について
(教育総務課、学校教育課、生涯学習課、文化・スポーツ振興課、
中央公民館、図書館)
- ・ 長岡第四小学校再整備工事請負契約の変更(第3回)について
(教育総務課)
- ・ 公の施設の指定管理者の指定について(長岡京市中山修一記念館)
(文化財保存活用課)

長岡第四小学校再整備工事請負契約の変更(第3回)について

長岡第四小学校再整備工事において、インフレスライド条項の適用により、請負契約を変更する必要があります。

定例会で協議後、長岡第四小学校再整備工事の請負契約を次のとおり変更することについて、議会の議決が必要となるため、12月議会への上程を予定しています。

1 工事名

長岡第四小学校再整備工事

2 変更工事概要

インフレスライド条項の適用による変更

3 変更請負代金

請負金額 4, 144, 787, 177円

変更請負金額(予定) 4, 293, 676, 577円

(148, 889, 400円の増額)

4 工期

変更なし

5 請負人

大鉄・山下特定建設工事共同企業体

代表者

京都市下京区油小路通塩小路下ル東油小路町533番地6

大鉄工業株式会社 京都支店

執行役員支店長 大西満典

公の施設の指定管理者の指定について (長岡京市立中山修一記念館)

長岡京市立中山修一記念館の管理運営にあたり、本年度末をもって指定期間が満了する当該施設の指定管理者候補者を選定しました。

公の施設の名称 及び所在地	長岡京市立中山修一記念館 長岡京市久貝三丁目3番3号
指定管理者 候補者	長岡京市長法寺谷山13-1 多世代交流ふれあいセンター（長岡京こらさ）2階 特定非営利活動法人長岡京市ふるさとガイドの会 理事長 横山 高尚
指定期間	令和6年4月1日から 令和11年3月31日まで

選定の経過

1 指定管理者の募集(公募)について

募集受付期間：令和5年8月1日～8月31日

募集周知方法：①広報長岡京8月号に募集記事掲載

②長岡京市のホームページに募集記事掲載(8月1日～)

2 応募者について

応募者数：1件

応募者名：特定非営利活動法人長岡京市ふるさとガイドの会

3 選定方法について

長岡京市指定管理者候補者評価委員会の評価を参考に選定

【報告事項】

- ・令和6年度始業式等の日程について

(学校教育課)

令和6年度始業式等の日程について

令和5年11月
学校教育課

		小学校	中学校
1 学期	始業式	令和6年4月8日(月)	令和6年4月8日(月)
	入学式	令和6年4月9日(火)	令和6年4月10日(水)
	終業式	令和6年7月19日(金)	令和6年7月19日(金)
2 学期	始業式	令和6年8月26日(月)	令和6年8月26日(月)
	終業式	令和6年12月24日(火)	令和6年12月24日(火)
3 学期	始業式	令和7年1月8日(水)	令和7年1月8日(水)
	卒業式	令和7年3月19日(水)	令和7年3月14日(金)
	修了式	令和7年3月24日(月)	令和7年3月24日(月)

参考

○長岡京市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則

第2章 学期、休業日等

第2条 学校の学期は、次のとおりとする。

第1学期 4月1日から8月25日まで

第2学期 8月26日から12月31日まで

第3学期 1月1日から3月31日まで

第3条 学校の休業日は、次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(2) 日曜日

(3) 土曜日

(4) 学年始休業日 小学校にあつては、4月1日から4月6日まで

中学校にあつては、4月1日から4月7日まで

(5) 夏季休業日 7月21日から8月25日まで

(6) 冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで

(7) 学年末休業日 3月25日から3月31日まで

(8) 前各号に定めるもののほか、校長が教育上特に必要と認め長岡京市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の承認を得た日